

みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 1,023人(令和元年6月28日現在)

アンケート回答者数 529人(回収率51.7%)

調査実施期間 令和元年6月下旬～7月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
131	398	0

同居未成年家族の有無

あり	なし	不明
116	410	3

新規・継続の別

新規	継続	不明
43	480	6

年代別内訳

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
5	15	61	94	158	151	45	0

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
6	10	38	471	4

年代別アンケート回収率

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
11.4%	21.1%	45.2%	48.7%	55.8%	71.6%	54.9%

※「同居している未成年家族の有無」は、以下「未成年家族の有無」と記載する。

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※男女別、年代別、未成年家族の有無別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

※「新規・継続の別」は、新規モニター(今回初めてアンケート対象者となった方)と継続モニター(新規モニター以外)の人数である。

《結果概要》

回答者の56.7%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じているが、昨年度と比べて4.9ポイント減少した(問1)。昨年より不安を感じるようになった回答者は17.8%であり、昨年度と比べて8.5ポイント減少した(問2)。最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「環境汚染物質」と「食品添加物」の順となった(問4)。

安全で安心できる食品を供給するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、「生産者の取組への支援」が最もポイントが高かった(問5)。

食の安全安心に係る信頼関係を確立するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」が最もポイントが高かった。(問6)

県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分」または「おおむね十分」とした回答者は50.2%であり、昨年度と比べて0.7ポイント減少した(問8)。

食品中の放射性物質を気にしている回答者は68.7%となり、昨年度と比べ1.0ポイント減少した(問12)。気にしている理由は、「人体への影響が不安」が最も多く、昨年度と同様の傾向であった(問13)。

現在不安を感じている食品は、昨年と同じく「きのこ・山菜類」が最もポイントが高く、次いで「魚介類」、「野菜」の順となった(問15)。

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、昨年と変わらず46.7%の回答者が確認している一方、52.7%の回答者は確認していない(問17)。また、放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認方法は、回答が多い順に「新聞」、「テレビ・ラジオ」、「店頭表示」となった(問18)。

一度基準値を超えた後に基準値以下あるいは不検出となった食品については、「不検出なら食べる」が54.5%で最も回答者が多かった(昨年度より4.5ポイント増)。「検出されていても基準値以下なら食べる」の回答者は昨年度より4.4ポイント減少し、18.3%となった。(問19)

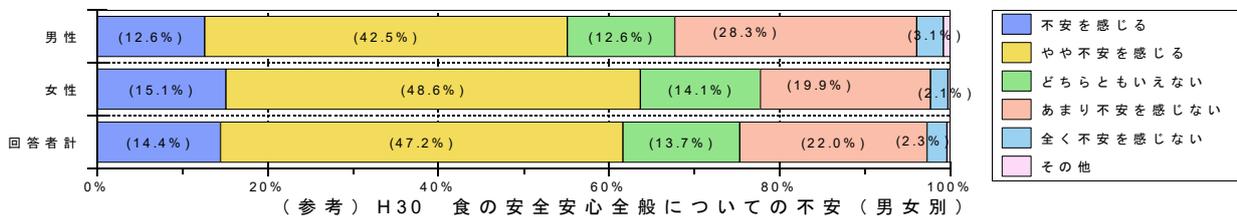
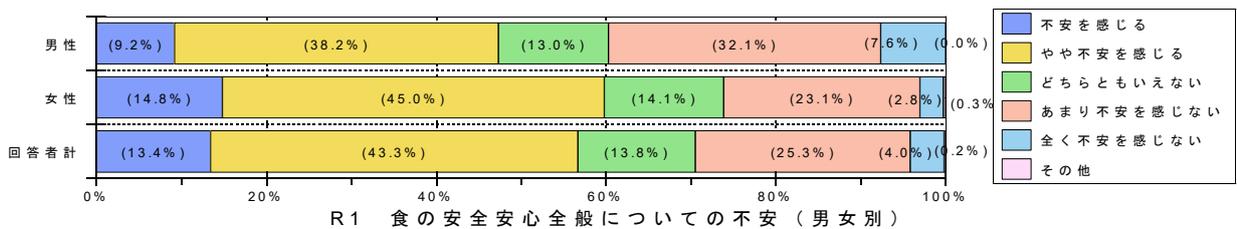
食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」、「県産農産物の安全性のPR」、「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」の順で要望が高く、継続した情報提供が求められている(問20)。

問1 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

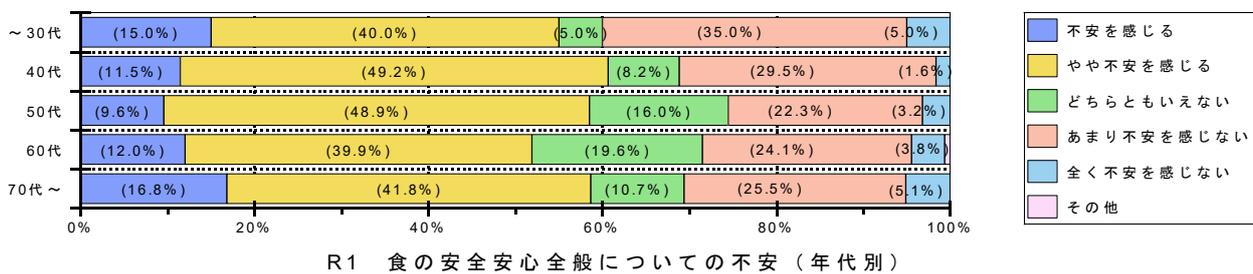
- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1 不安を感じる | 2 やや不安を感じる | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり不安を感じない | 5 全く不安を感じない | 6 その他 |

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(13.4%)、「やや不安を感じる」(43.3%)を合わせて56.7%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ4.9ポイント減少している。

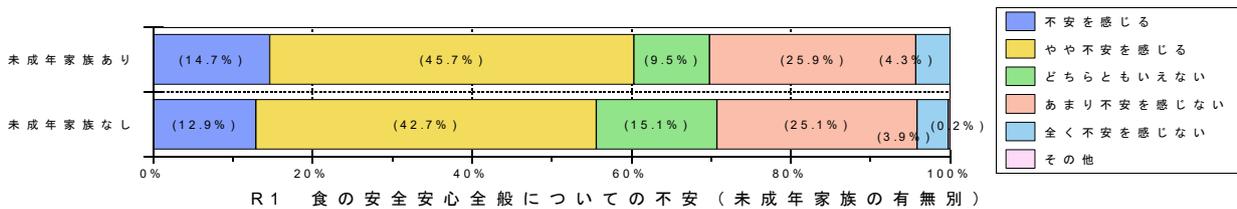
男女別では、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の項目で有意差が見られ、いずれも男性の回答割合が高い。



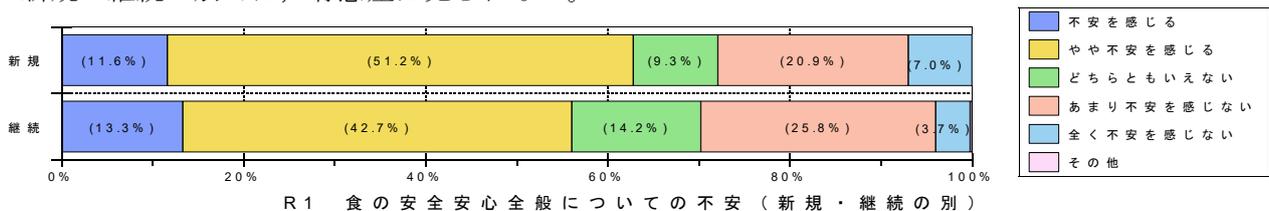
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

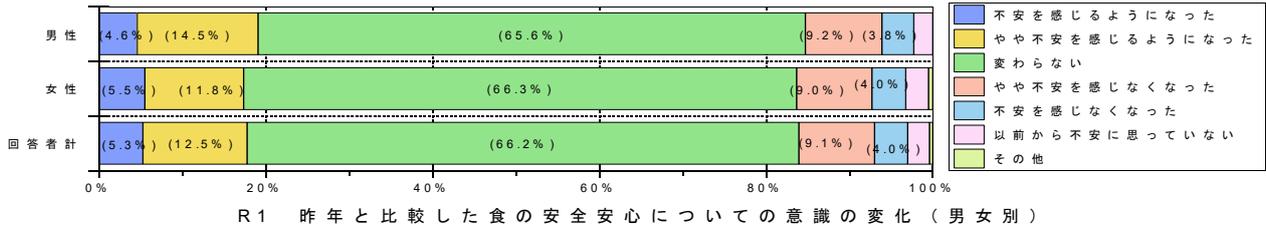


問2 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

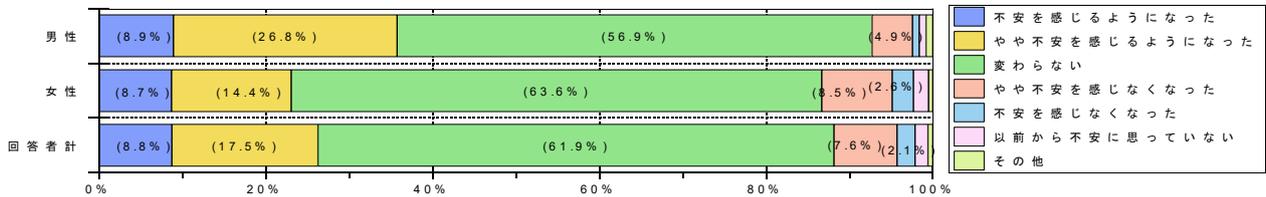
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった |
| 3 変わらない | 4 やや不安を感じなくなった |
| 5 不安を感じなくなった | 6 以前から不安に思っていない |
| | 7 その他 |

「不安を感じるようになった」(5.3%)、「やや不安を感じるようになった」(12.5%)を合わせた17.8%が何らかの不安を感じるようになっており、昨年度に比べ8.5ポイント減少した。また、「やや不安を感じなくなった」(9.1%)は昨年度に比べ1.5ポイント増加し、「不安を感じなくなった」(4.0%)は昨年度に比べ1.9ポイント増加した。

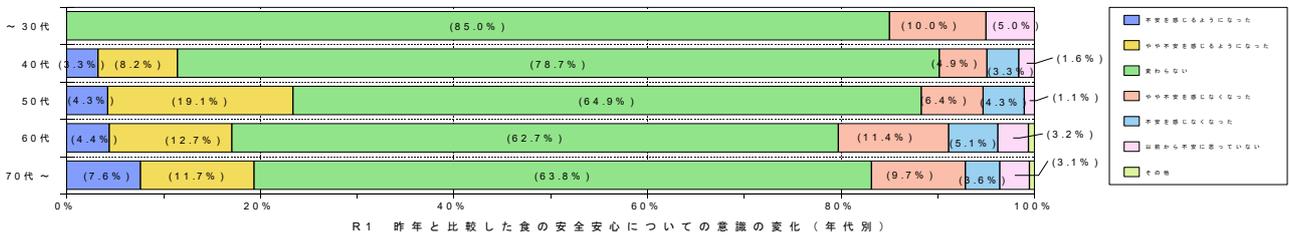
男女別では、有意差は見られない。



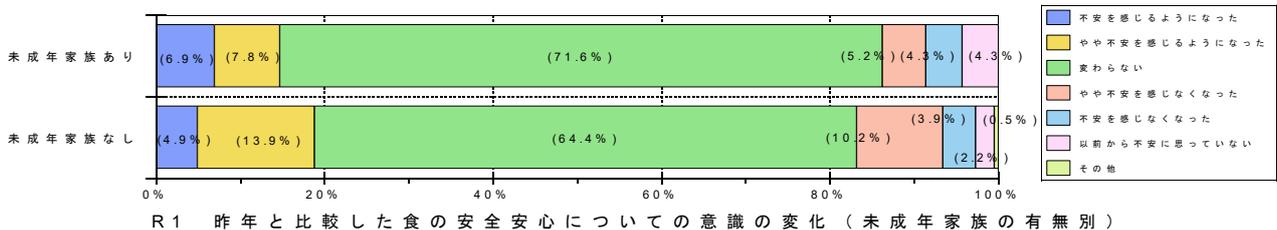
(参考) H30 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化(男女別)



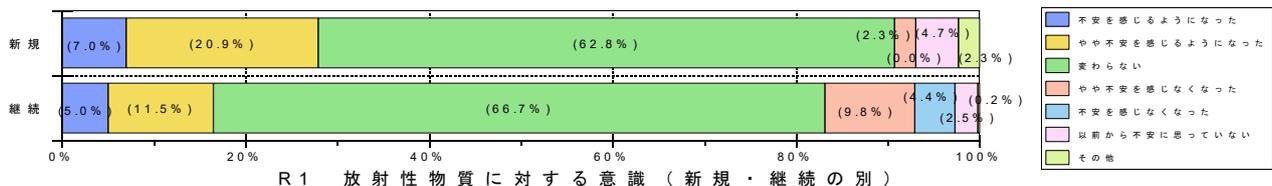
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、「やや不安を感じるようになった」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が高い。



問3 問2で、意識の変化があったと回答した方にお聞きします。意識が変化した理由は何ですか。自由にお書きください。 ※今年度からの新設問

計118件の記述回答があり、問2で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問2で「1 不安を感じるようになった」「2 やや不安を感じるようになった」と回答した方の主な理由は、「輸入食品について」、「食品添加物について」、「食品表示について」であった。

問7で「4 やや不安を感じなくなった」、「5 不安を感じなくなった」と回答した方の主な理由は、「わかりにくいから」、「どのように情報提供されているか不明だから」であった。

	理由の概要	主な内容
1 又 は 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入食品について (14) ・ 食品添加物について (8) ・ 食品表示について (6) ・ 遺伝子組換え食品について (4) ・ 海洋プラスチックについて (3) ・ 放射性物質について (3) ・ 豚コレラについて (2) ・ 飲食業界について (2) ・ 健康食品について (2) ・ その他 (26) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入食材が日本の安全基準を満たしているのか疑問だから ・ 中国、韓国産の食品に対する不信感があるから ・ アルゼンチン産の牛肉の安全性が確保されているのか疑問だから ・ TPPによって国内産の食料が一層少なくなる可能性があるから ・ 原材料に添加物が多すぎるから ・ コンビニのおにぎりを長時間放置したのに腐っていなかったから ・ 食品に表示されている内容が事実と一致しているか疑わしいから ・ 食品表示は確認すべきだと思うが、文字が小さいから ・ ゲノム編集食品に表示義務がないから ・ 遺伝子組換え食品が増えていると感じるから ・ プラスチックゴミが海産物に与える影響が心配だから ・ 原発事故後、魚が汚染されていないか心配だから ・ 豚コレラが終息せず、広がっていくことが心配だから ・ SNSで拡散された飲食業界の従業員による悪質な食品の取扱いを見て、不信感が増大したから ・ 豪雨などの異常気象により、作物が安定的に供給されなくなることが不安だから ・ 健康食品が効果を謳うことに関して、何も規制がないようで、高齢者がだまされているような気がするから ・ 最近の週刊誌の「キャンペーン」的な記事に触発されたから ・ あまりにも養殖のものが多すぎるから ・ 購入したおはぎに異物が混入していたから ・ モニターになり、食に関する知識が増えたため
4 又 は 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナー、モニターだよりについて (8) ・ 放射性物質について (7) ・ 情報が増えたことについて (5) ・ 情報が減ったことについて (3) ・ 時間が経過したことについて (3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーや研修会に参加することで、輸入食品の安全性、食中毒、添加物、放射性物質に関する知識が増えたから ・ モニターだより第22号に掲載された放射性物質のモニタリング調査において、全体的に超過割合が低下していることが示されていたから ・ 河北新報に掲載されている宮城、福島、岩手県南の放射性物質の測定値が下がっているから ・ 宮城県内の食肉の放射性セシウムがすべて基準値を下回っているから ・ 新聞、テレビ等で放射線量に関する情報が広く出ているから ・ 食の安全安心について、ニュースで大きく取り上げられることが少なくなったように感じるから ・ 震災から月日が経ち、食に対する意識が低下してきたから

問4 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。
(5段階評価)

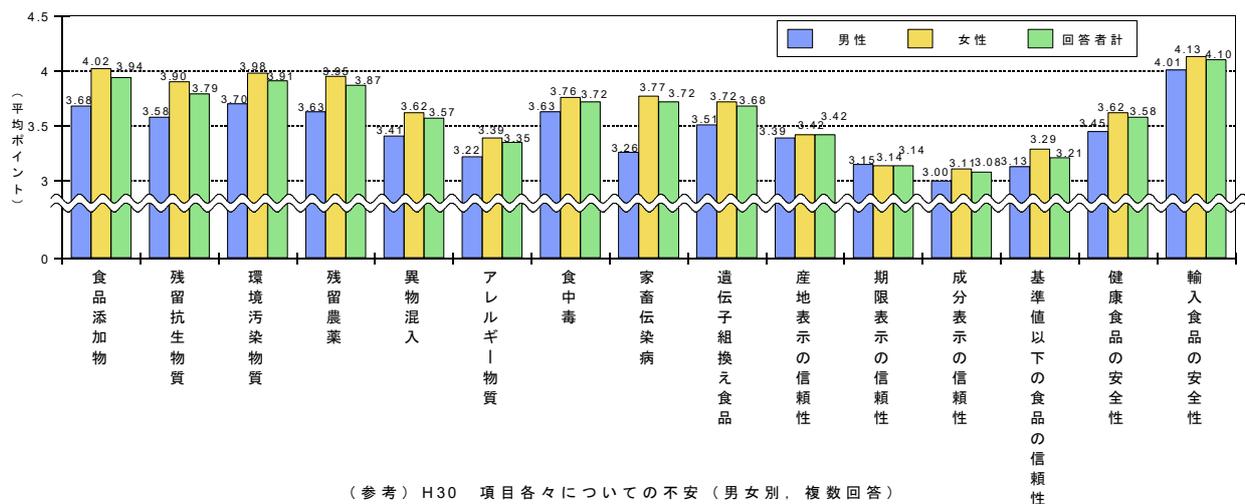
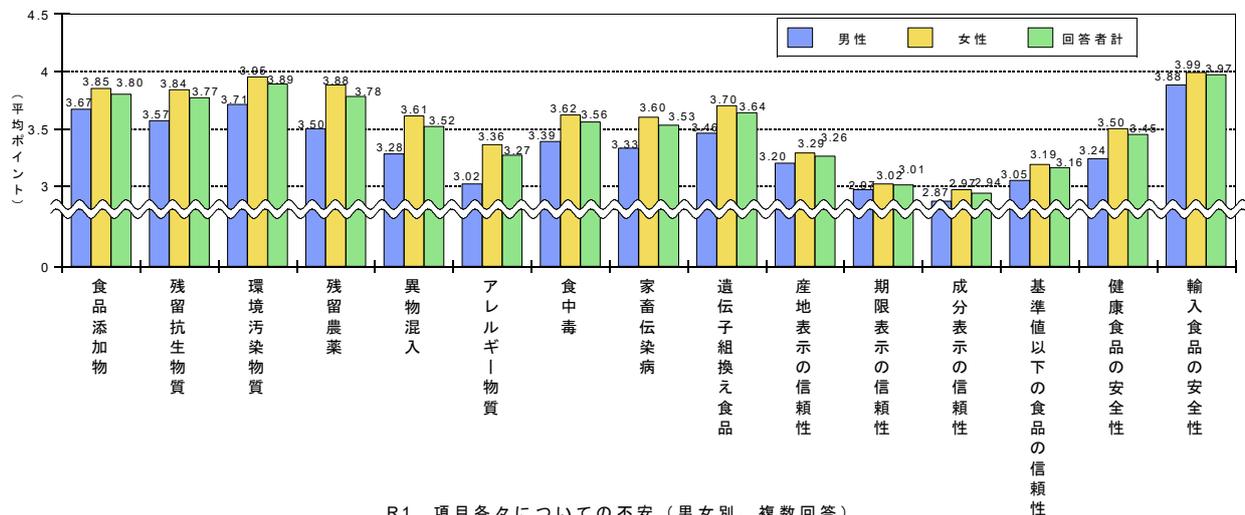
A 食品添加物について	B 残留抗生物質について	C 環境汚染物質について
D 残留農薬について	E 異物混入について	F アレルギー物質について
G 食中毒について	H 家畜伝染病について	I 遺伝子組換え食品について
J 産地表示の信頼性	K 期限表示の信頼性	L 栄養成分表示の信頼性
M 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	O 輸入食品の安全性	P その他
N 健康食品の安全性		

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(3.97点)が最も高く、次いで「環境汚染物質」(3.89点)、「食品添加物」(3.80点)、「残留農薬」(3.78点)、「残留抗生物質」(3.77点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「輸入食品の安全性」、「食品添加物」、「環境汚染物質」、「残留農薬」、「残留抗生物質」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。

平成24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」に対する不安(3.16点)については、昨年度(3.21点)よりわずかに低下した。



※平均ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

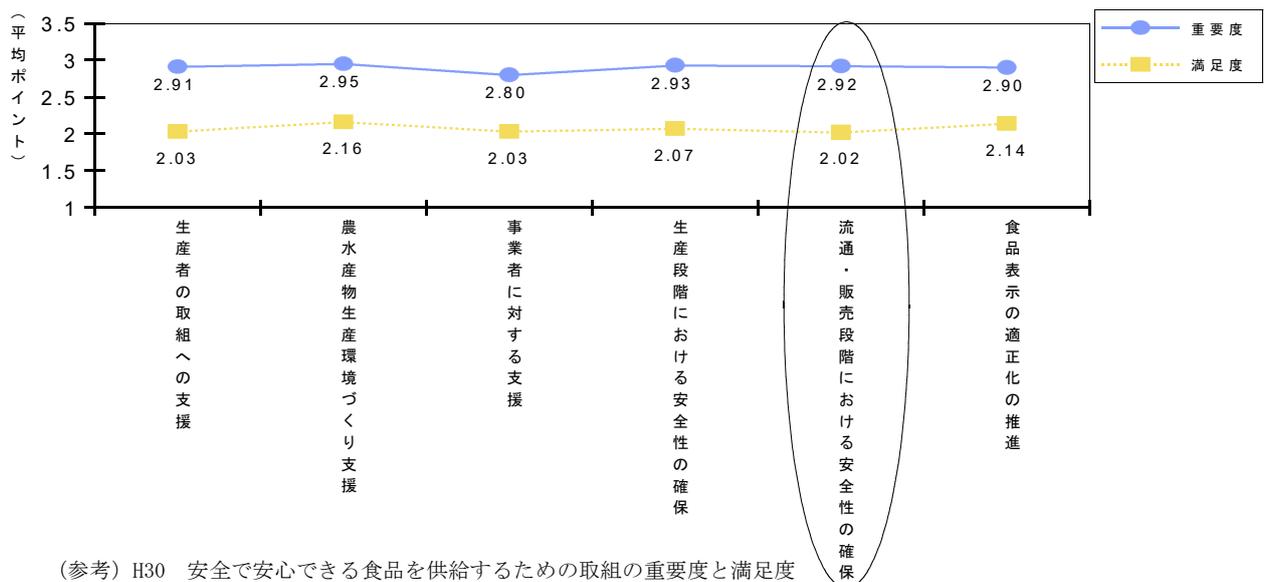
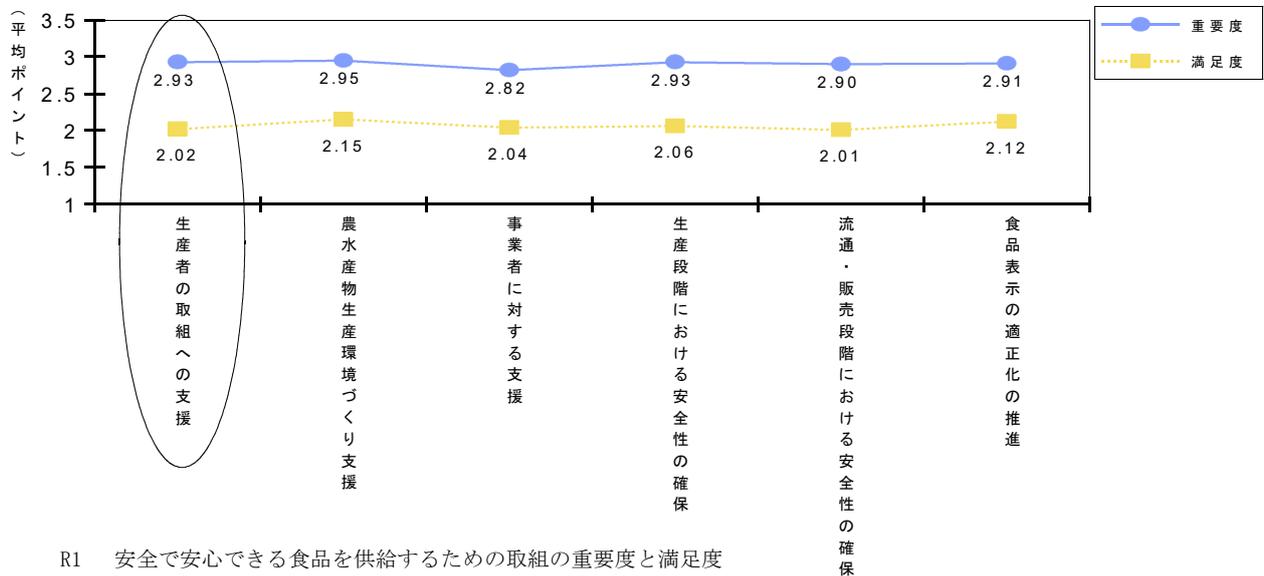
問5 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

A 生産者の取組への支援	B 安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C 事業者に対する支援	D 生産段階における安全性の確保
E 流通・販売段階における安全性の確保	F 食品表示の適正化の推進
G その他	

重要度	1 重要だと思う	2 どちらともいえない	3 重要だと思わない
満足度	1 十分行われている	2 どちらともいえない	3 不十分である

食の安全性を確保するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者の取組への支援」であった。次いで、「流通・販売段階における安全性の確保」、「生産段階における安全性の確保」の順であった。

昨年度のアンケート調査結果では、「流通・販売段階における安全性の確保」、「生産者の取組への支援」、「生産段階における安全性の確保」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。



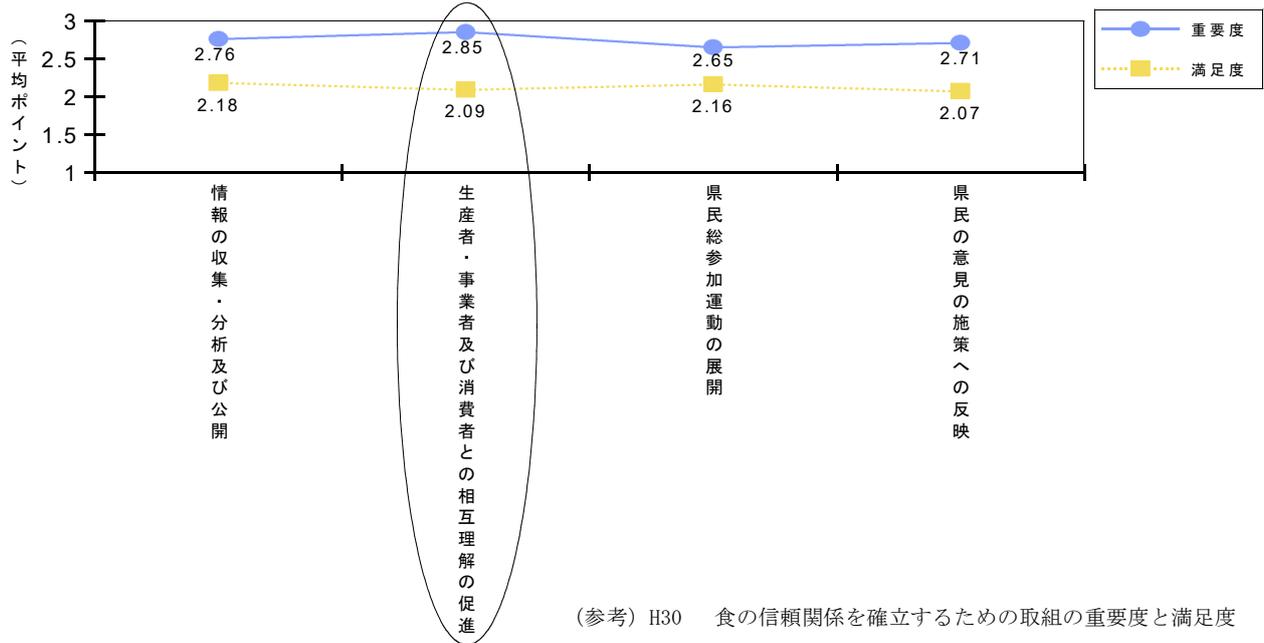
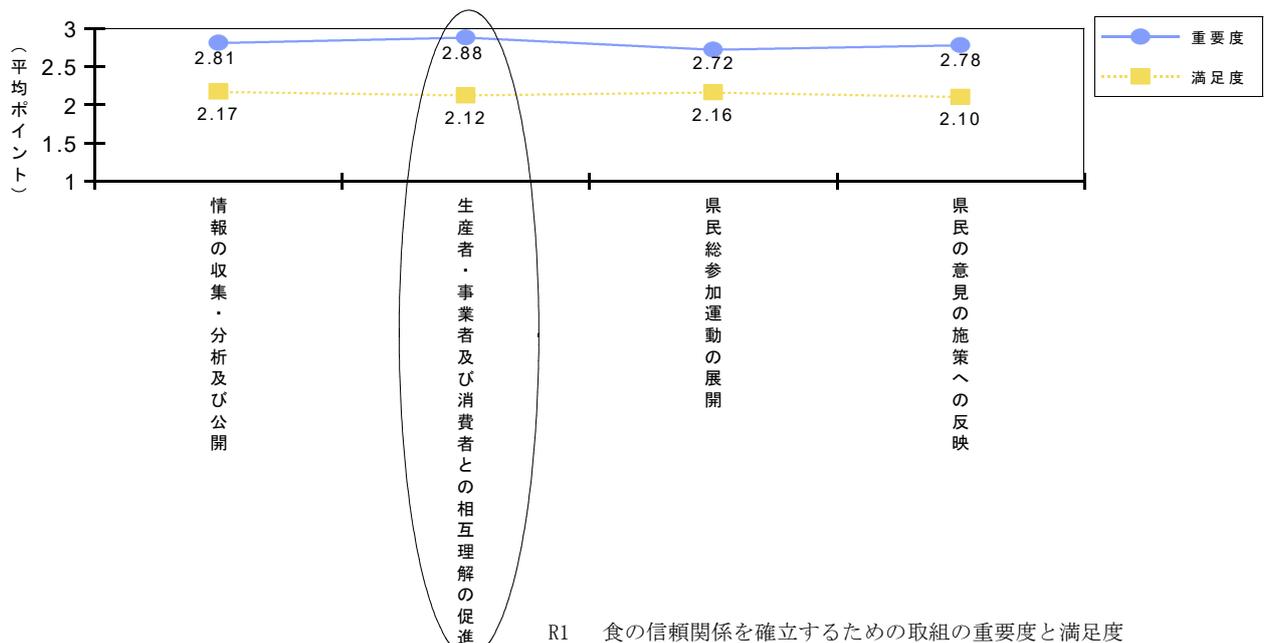
※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を3点、「どちらともいえない」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問6 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

A 情報の収集, 分析及び公開	B 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進
C 県民総参加運動の展開	D 県民の意見の施策への反映 E その他

重要度	1 重要だと思う	2 どちらともいえない	3 重要だと思わない
満足度	1 十分行われている	2 どちらともいえない	3 不十分である

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていない（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」となった。次いで「県民の意見の施策への反映」、「情報の収集・分析及び公開」の順であり、昨年と同様の傾向であった。



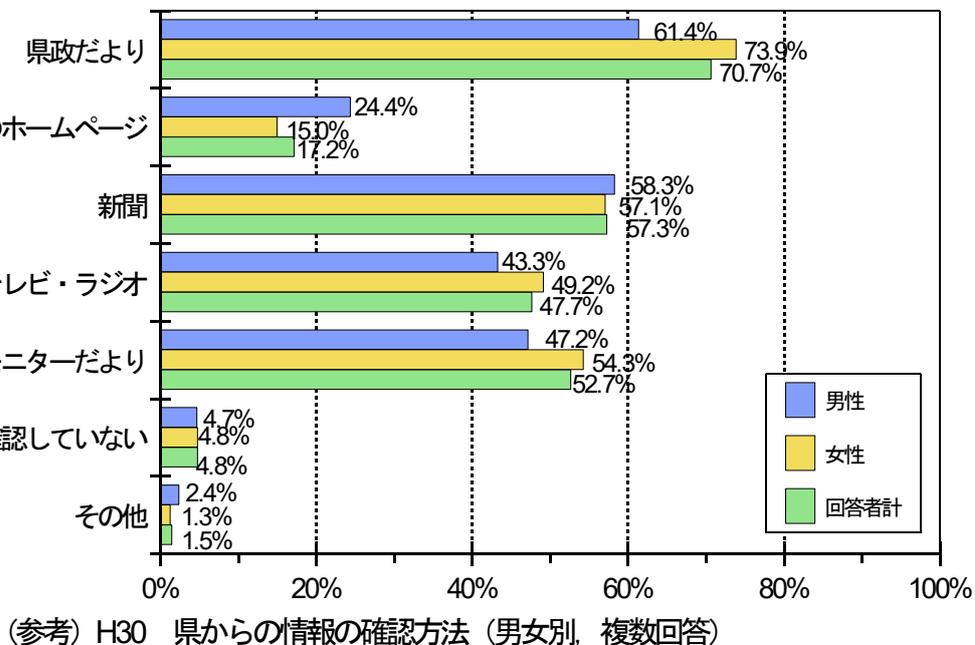
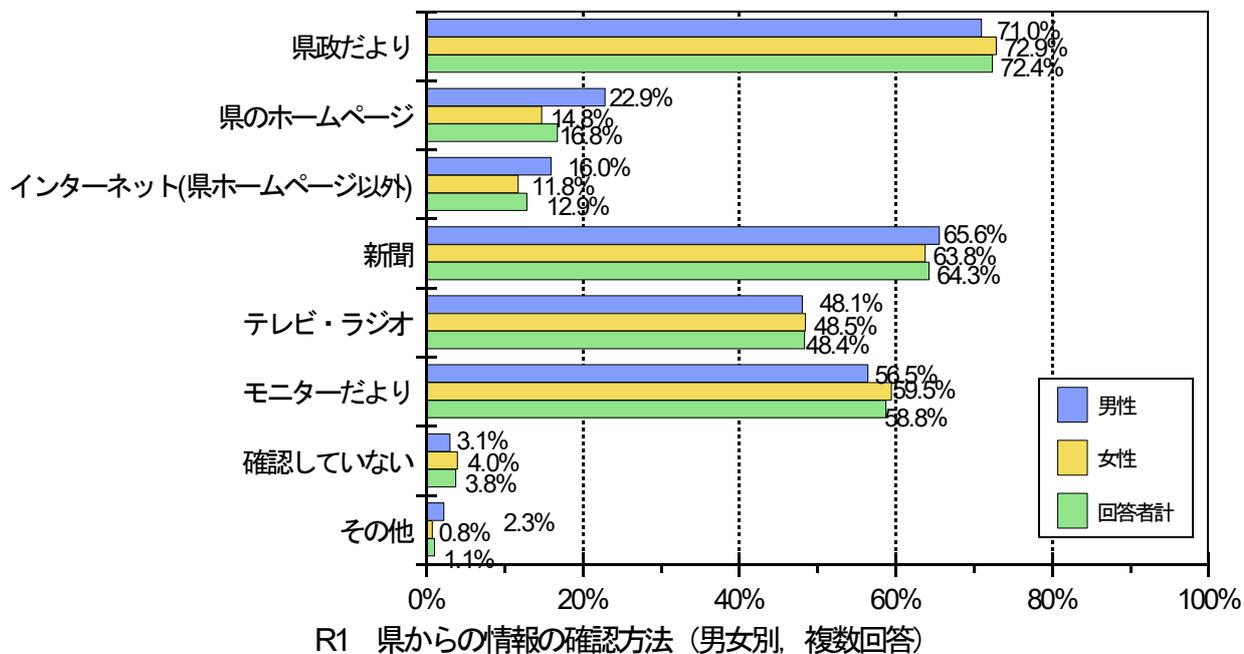
※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を3点、「どちらともいえない」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問7 どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。
(複数回答)

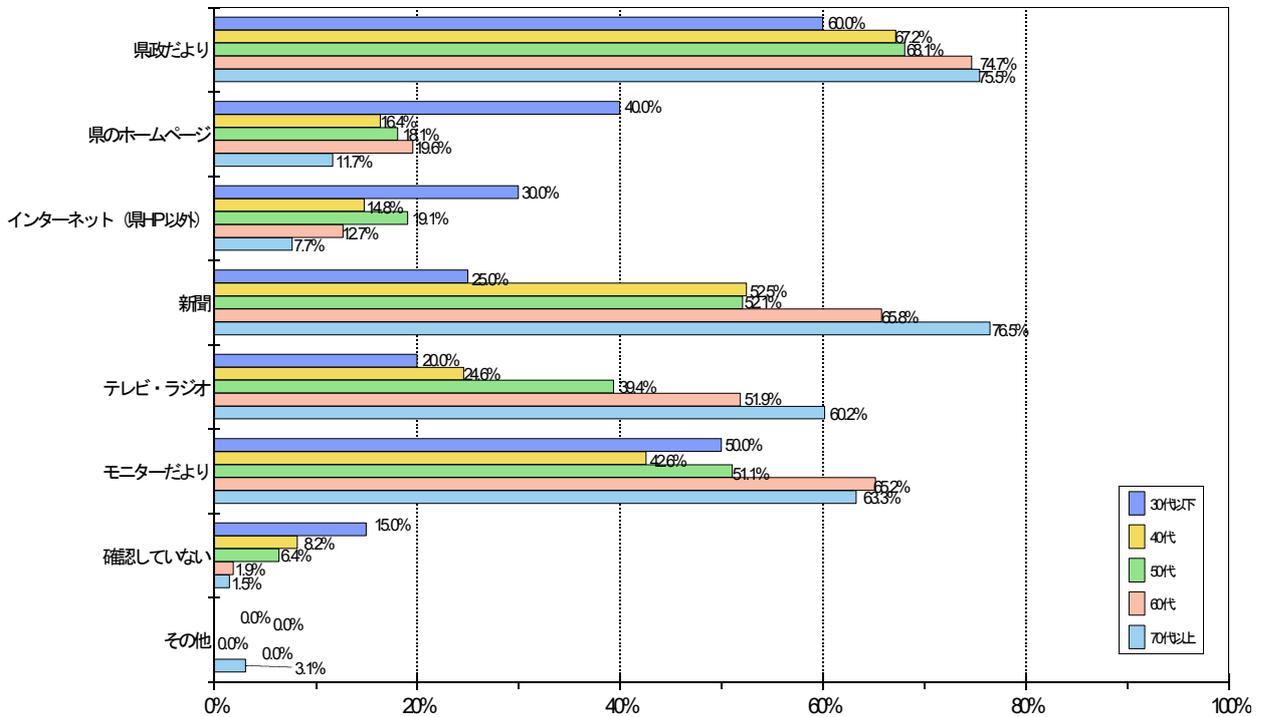
- | | | |
|-----------|------------|----------------------|
| 1 県政だより | 2 県のホームページ | 3 インターネット(県ホームページ以外) |
| 4 新聞 | 5 テレビ・ラジオ | 6 モニターだより |
| 7 確認していない | 8 その他 | |

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(72.4%)が最も多く、次いで「新聞」(64.3%)、「モニターだより」(58.8%)の順となり、昨年と同様の傾向であった。

男女別では、「県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

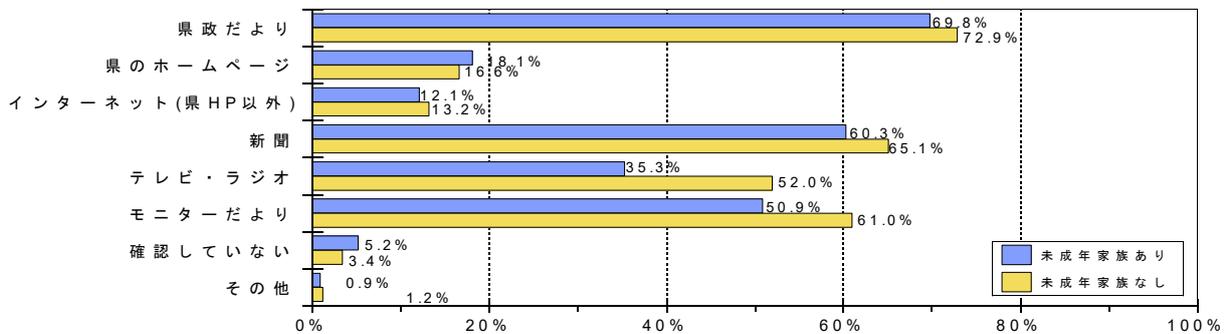


年代別では、「県ホームページ」の項目で有意差が見られ、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また、「インターネット（県ホームページ以外）」の項目では、30代以下・50代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「新聞」の項目では、30代以下・40代・50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。「テレビ・ラジオ」の項目では、30代以下・40代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。「モニターだより」の項目では40代の回答割合が低い。「確認していない」の項目では30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



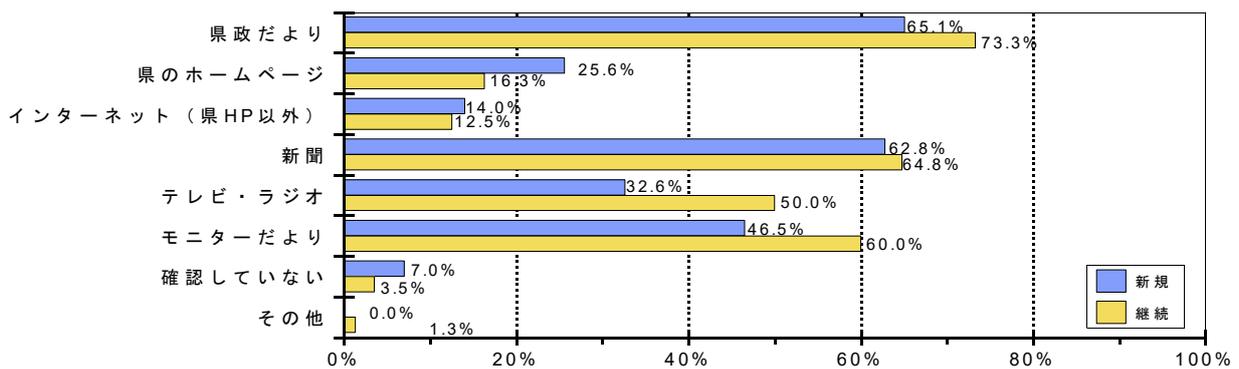
R1 どのように県が出す情報を確認しているか（年代別、複数回答）

未成年の家族の有無別では、「テレビ・ラジオ」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



R1 どのように県が出す情報を確認しているか（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では、「テレビ・ラジオ」の項目で有意差が見られ、継続モニターの回答割合が高い。



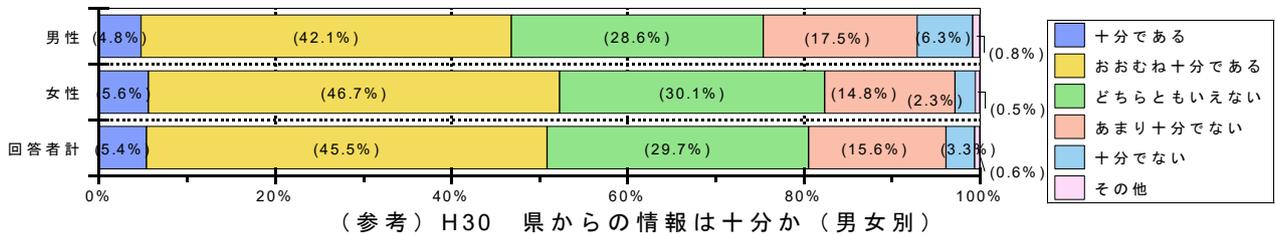
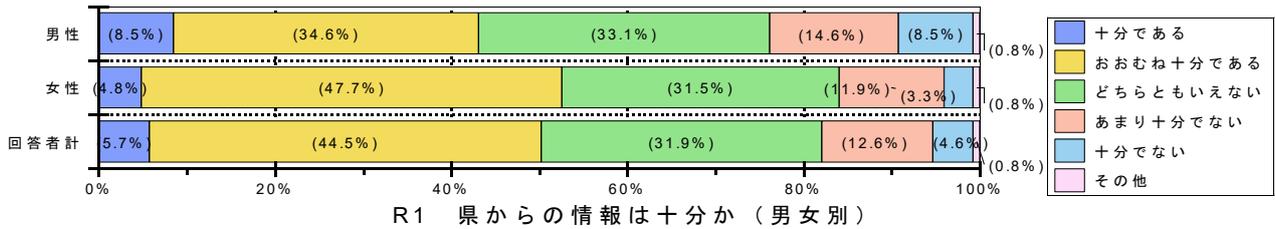
R1 どのように県が出す情報を確認しているか（新規・継続の別、複数回答）

問8 県からの食の安全安心に関する情報提供について、十分だと感じていますか。
(単一回答)

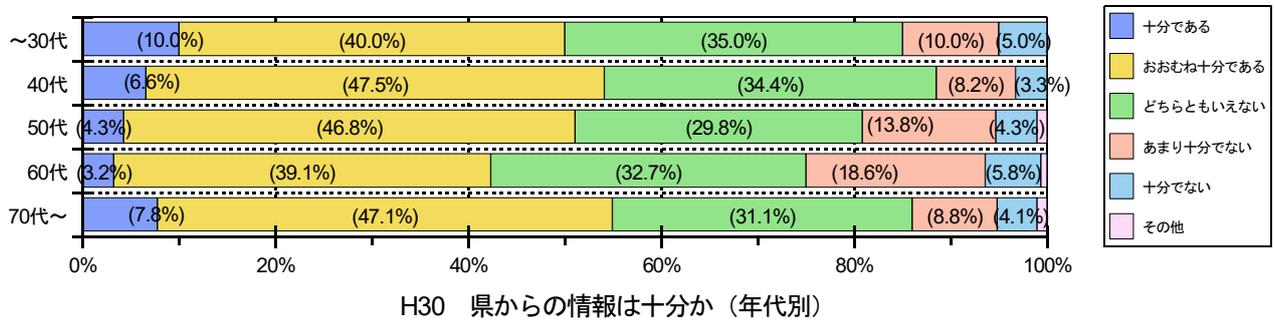
- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 十分である | 2 おおむね十分である | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり十分でない | 5 十分でない | 6 その他 |

県からの情報提供については、「十分である」(5.7%)と「おおむね十分である」(44.5%)を合わせて50.2%となり、昨年度に比べ0.7ポイント減少した。

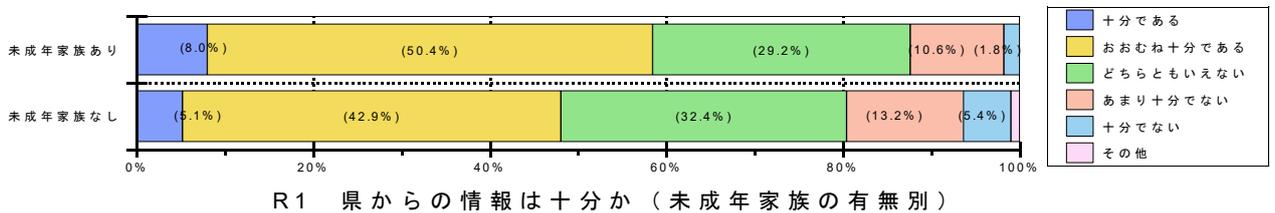
男女別では、有意差は見られない。



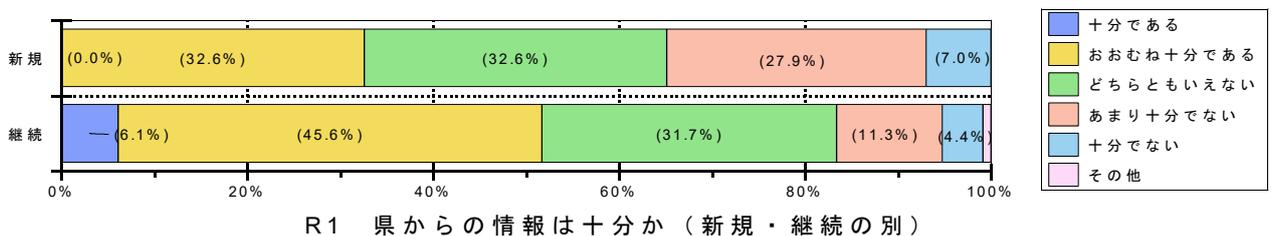
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では「あまり十分でない」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が高い。



問9 問8の回答理由はなんですか。自由にお書きください。

計333件の記述回答があり、問8で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問8で「1 十分である」「2 おおむね十分である」と回答した者の主な理由は、「各種媒体で情報収集できるから」、「モニターに参加することで情報を得ているから」であった。

問7で「4 あまり十分でない」、「5 十分でない」と回答した者の主な理由は、「情報を目にする機会が少ないから」、「ホームページで情報提供されても確認することができないから」であった。

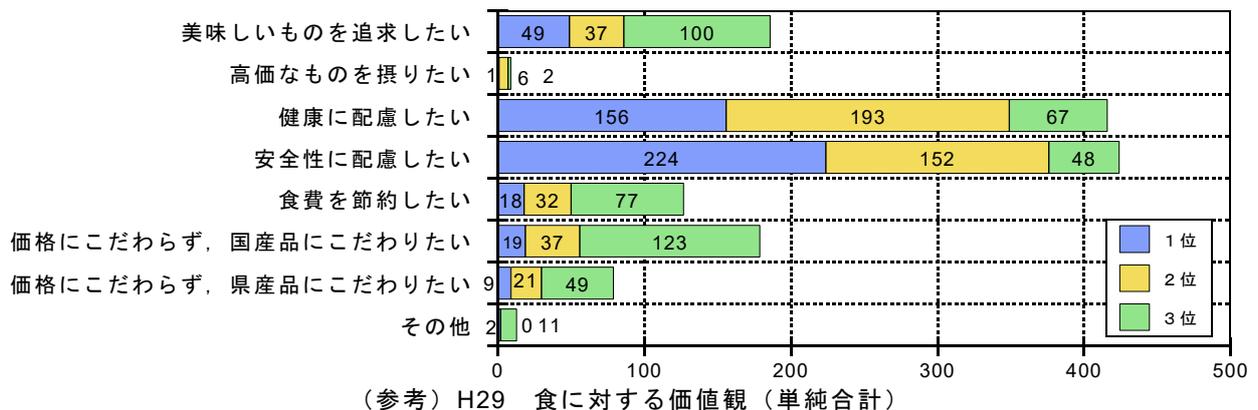
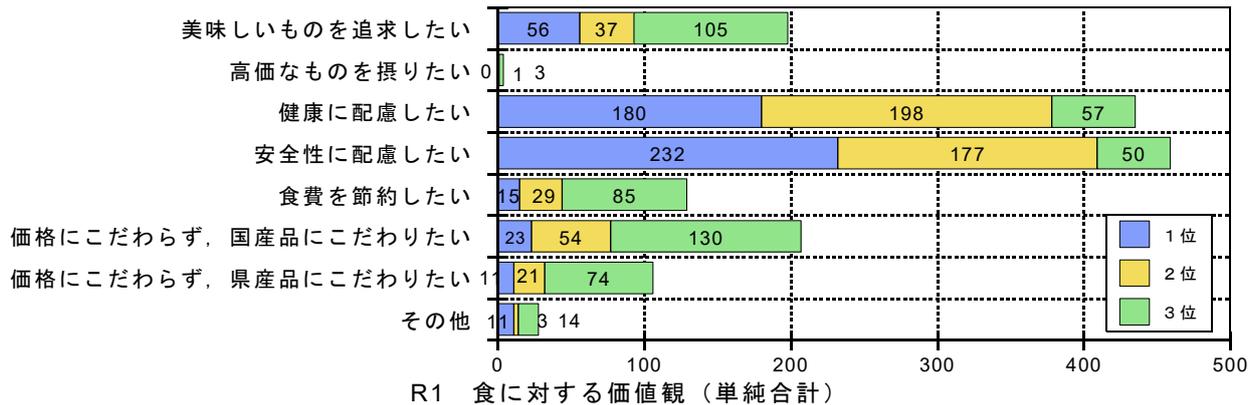
	理由	要望
1	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体で情報を得ているから (7) モニターに参加することで情報を得ているから (4) 	<ul style="list-style-type: none"> これからも県民に学習する機会を提供してほしい (1) 大切なことだけ切り取って情報を提供してほしい (1)
2	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体で情報を得ているから (61) モニターに参加することで情報を得ているから (21) 受け手側の意識の問題だと思うから (12) 県を信頼しているから (9) 県は適切に情報を公表していると思うから (5) 行政の努力が感じられるから (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを見られない高齢者に配慮してほしい (2) 食の安全安心に興味のない方に向けても、情報提供してほしい (2) 分かりやすい情報提供してほしい (2) もっと自然に目に入ってくるような情報提供してほしい (1) 県政だよりの食の安全安心の記事が小さすぎるので、拡大してほしい (1)
3	<ul style="list-style-type: none"> 受け手側の意識の問題だと思うから (17) 興味のない人には届いてないと思うから (9) 情報が分かりにくいから (7) 情報提供がされているか分からないから (5) 情報提供に十分ということはないと思うから (4) 提供すべき情報の全体像が分からないから (1) 情報を完全に信頼していか分からないから (1) 自分の周りの人は情報を理解していないと感じる (1) 	<ul style="list-style-type: none"> テレビや新聞をもっと利用してほしい (4) 国、県、市町村で協力して取り組むべき (1) もっと細かくマメに情報発信してほしい (1) 販売されている魚に放射性物質検査結果に関する表示してほしい (1) 関心がない人にも伝わる工夫をしてほしい (1) ホームページに頼らず情報提供してほしい (1)
4	<ul style="list-style-type: none"> 情報を目にする機会が少ないから (8) ホームページで情報提供されても確認することができないから (7) 情報が分かりにくいから (2) 情報が浸透していないと感じるから (2) 関心がない人には届いていないと思うから (2) 情報提供されているか分からないから (1) 意見を反映しているように見えないから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーやコンビニ等で情報を取得できるようにしてほしい (2) モニター以外にもモニターだよりの内容を伝えてほしい (1) 保健環境センターの研究の結果について、積極的に周知してほしい (1) 情報提供の回数を増やしてほしい (1)
5	<ul style="list-style-type: none"> 情報を目にする機会が少ないから (3) 一般の県民は関心がないと思うから (2) ホームページで情報提供されても確認することができないから (2) 情報が分かりにくいから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> もっと表現を平易に分かりやすく情報を発信してほしい (2) 添加物等に関する安全性を明示してほしい (1) 県政だよりでモニター以外の県民にも情報提供してほしい (1)
6	<ul style="list-style-type: none"> ホームページで情報提供されても確認することができないから (1) 県を信頼していないから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供されている場所を教えてください (1)

問10 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。
(優先度の高い順に3つ)

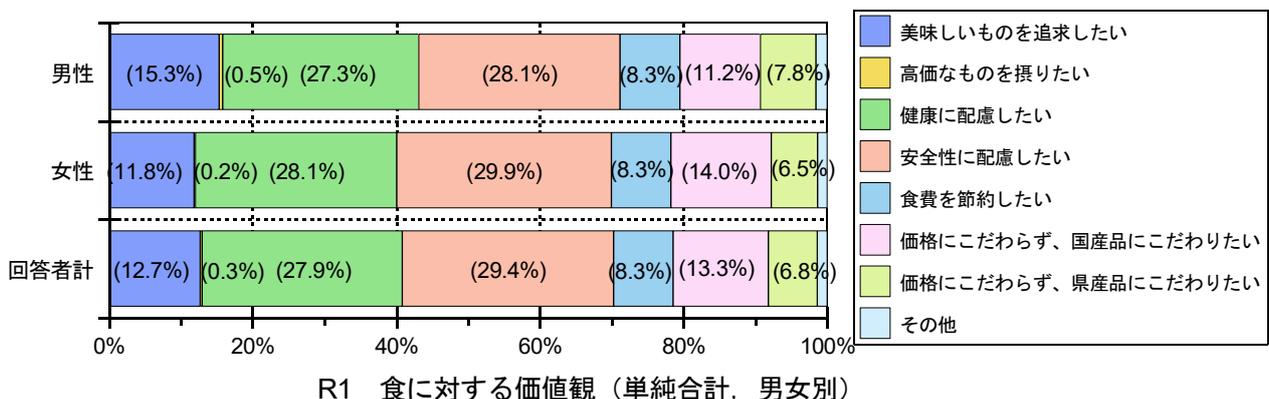
- | | | |
|-----------------------|--------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい | 2 高価なものを摂りたい | 3 健康に配慮したい |
| 4 安全性に配慮したい | 5 食費を節約したい | |
| 6 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい | | |
| 7 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 8 その他 | |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(459人)、「健康に配慮したい」(435人)と回答する人が圧倒的に多く、次いで「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(207人)、「美味しいものを追求したい」(198人)、「食費を節約したい」(129人)の順であった。

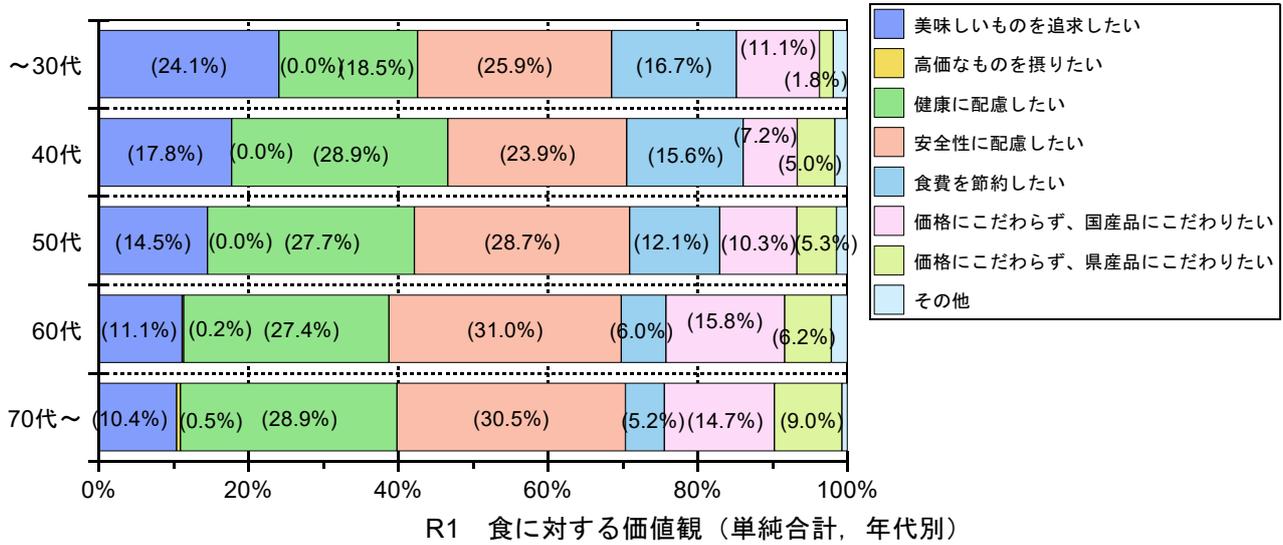
H29年度の結果と同様の傾向となっている。(※H30年度本質問は実施なし)



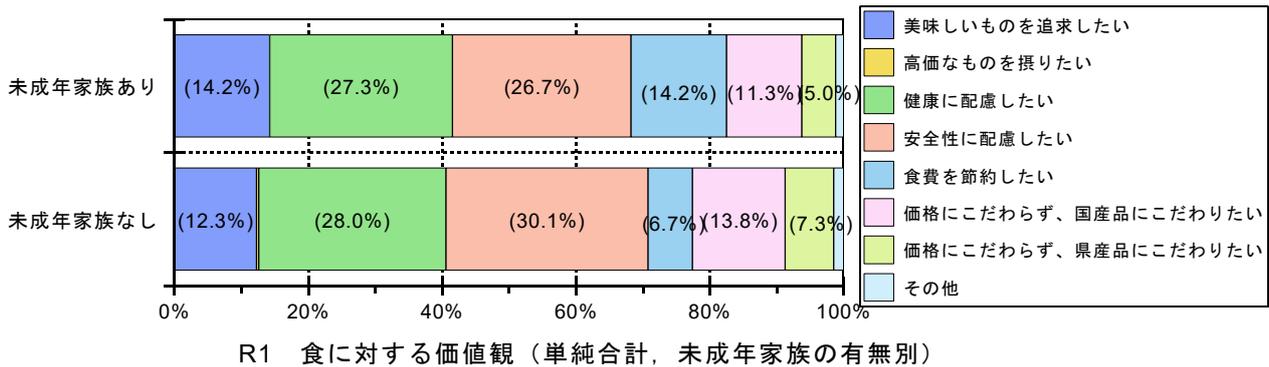
男女別では、有意差は見られない。



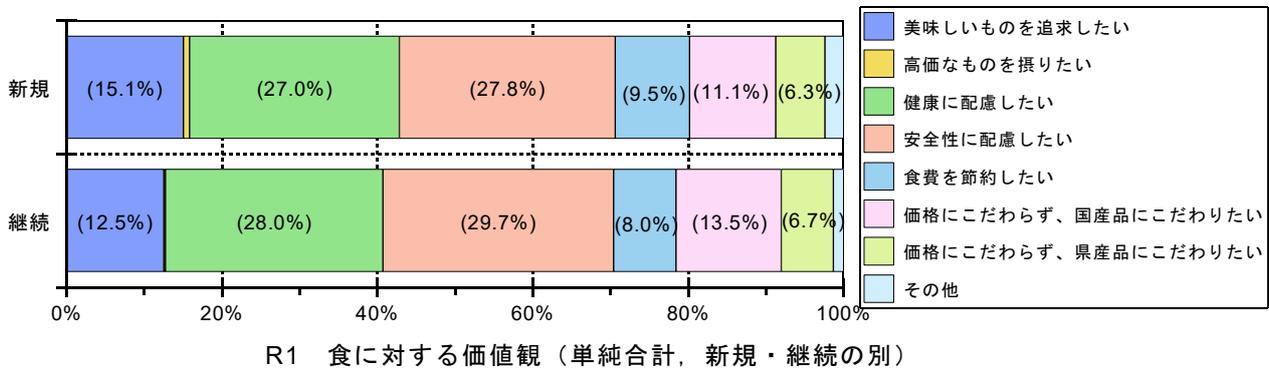
年代別では「美味しいものを追求したい」の項目で有意差が見られ、30代以下・40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また「食費を節約したい」の項目では、30代以下・40代・50代の回答割合が高く、60代・70代以上の回答割合が低い。「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」の項目では、40代の回答割合が低く、60代の回答割合が高い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目では、70代以上の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

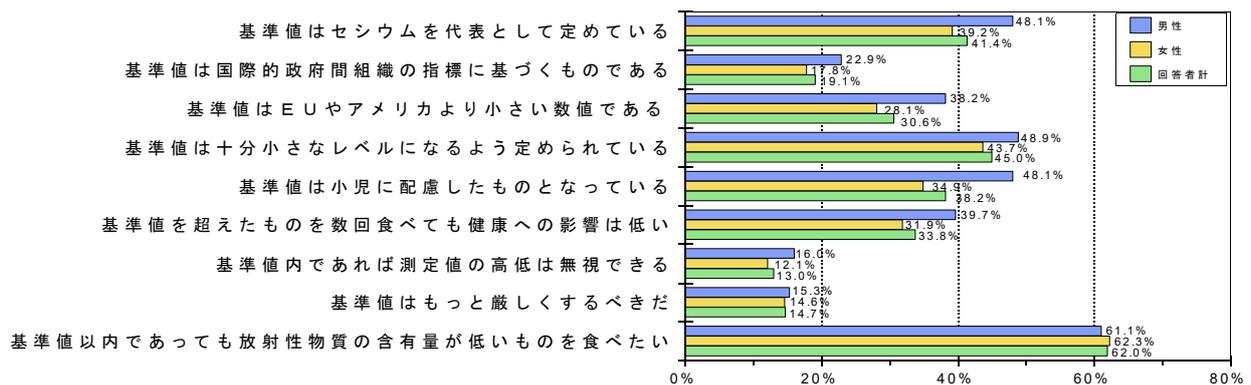


問 1 1 食品中の放射性物質の基準について、あなたが知っていることや思っていることは何ですか。(複数回答)

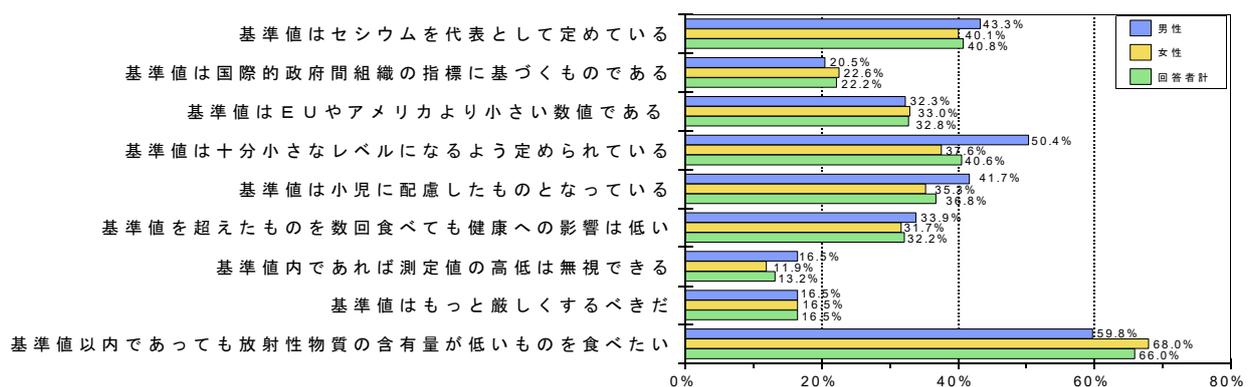
- 1 基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている
- 2 基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである
- 3 基準値はEUやアメリカより小さい数値である
- 4 生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている
- 5 基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている
- 6 基準値を超えたものを数回程度食べたとしても、健康への影響は低い
- 7 基準値内であれば、測定値の高低は無視できる
- 8 基準値はもっと厳しくするべきだ
- 9 基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい

食品中の放射性物質の基準について知っていること、思っていることは、「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」(62.0%)が最も多く、次いで「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるように定められている」(45.0%)、「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」(41.4%)の順である。

男女別では、「基準値はEUやアメリカより小さい数値である」と「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」の項目で有意差が見られ、いずれも男性の回答割合が高い。

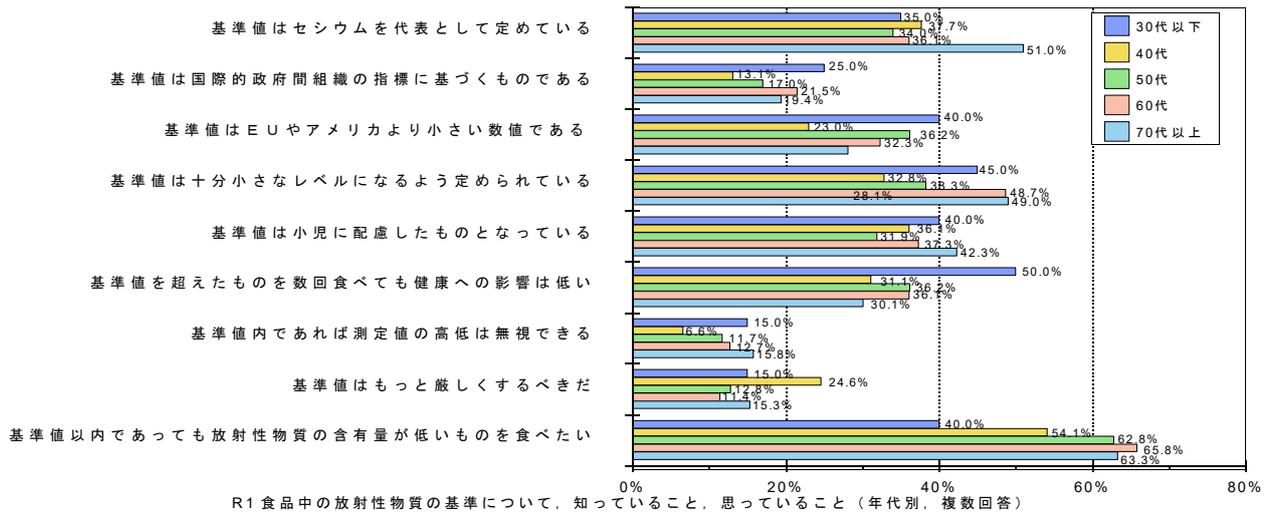


R1 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること(男女別、複数回答)

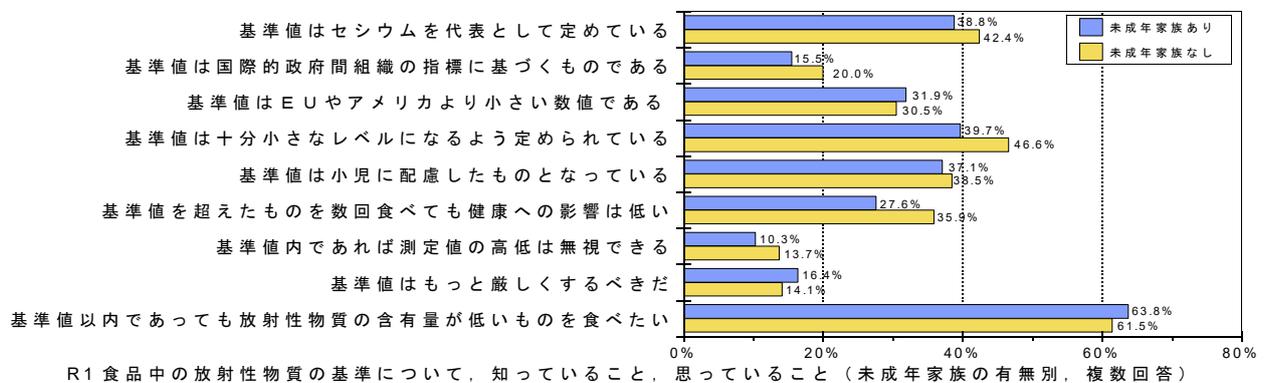


(参考) H30 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること(男女別、複数回答)

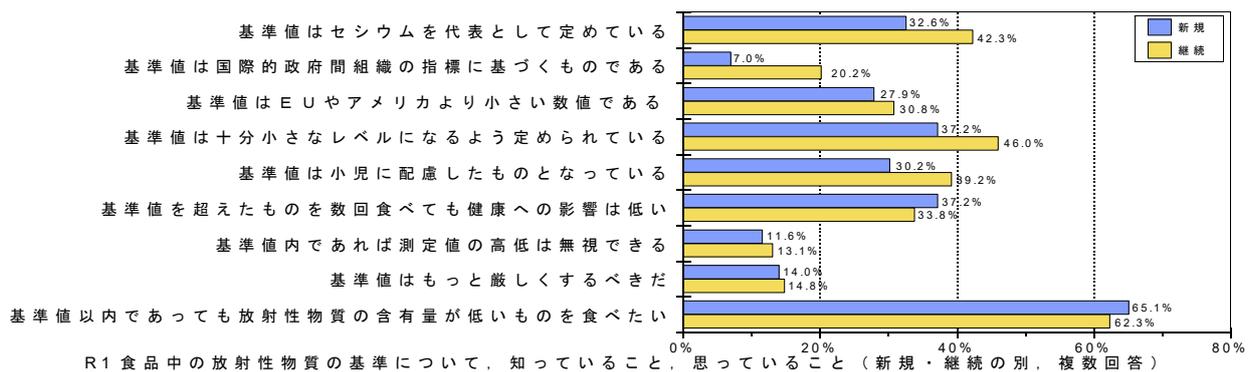
年代別では「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では「基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである」の項目で有意差が見られ、継続モニターの回答割合が高い。

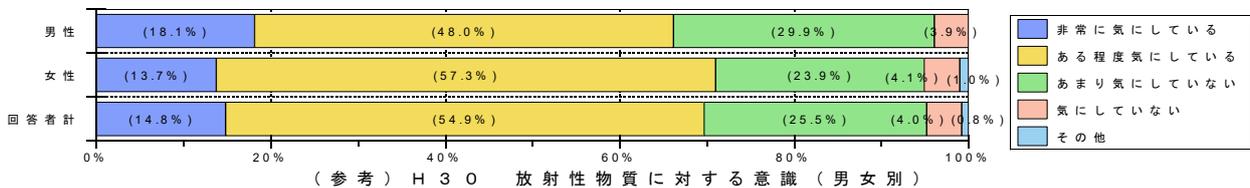
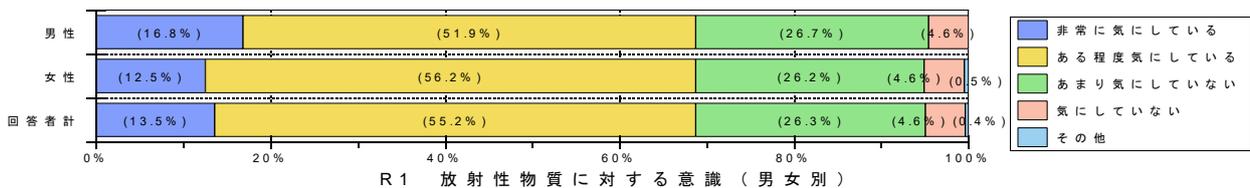


問 1 2 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

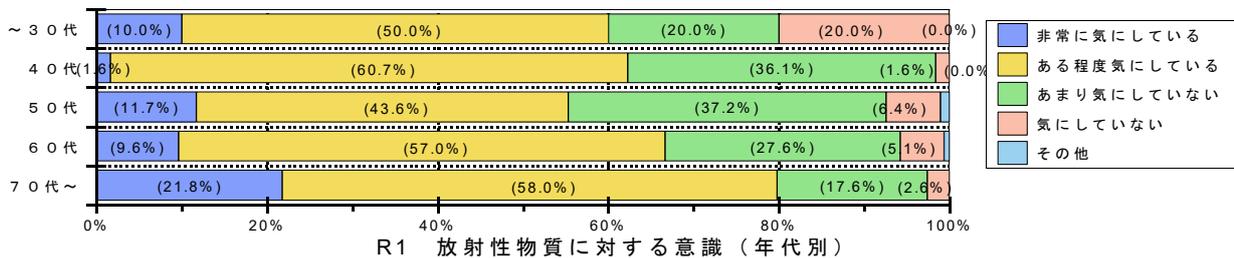
- 1 非常に気にしている 2 ある程度気にしている 3 あまり気にしていない
4 気にしていない 5 その他

放射性物質については、「非常に気にしている」(13.5%)、「ある程度気にしている」(55.2%)を合わせた68.7%の回答者が気にしており、昨年度に比べ1.0ポイント減少した。また、「あまり気にしていない」(26.3%)、「気にしていない」(4.6%)を合わせた回答者は30.9%で、昨年度に比べ1.4ポイント増加した。

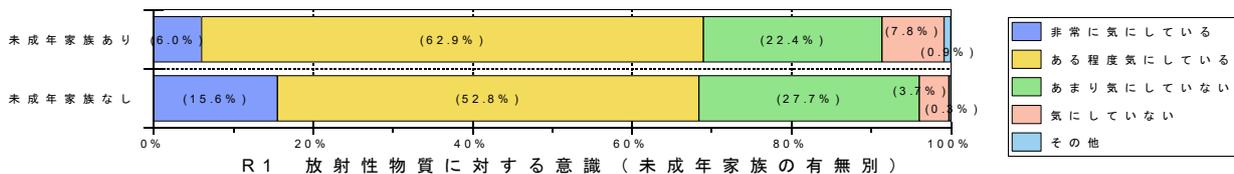
男女別では、有意差は見られない。



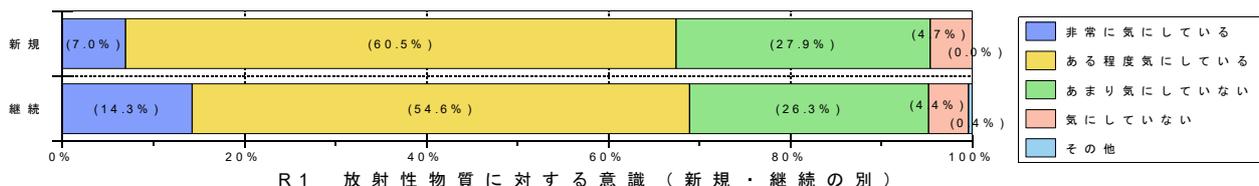
年代別では「非常に気にしている」の項目で有意差が見られ、40代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。また「気にしていない」の項目では、30代以下の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



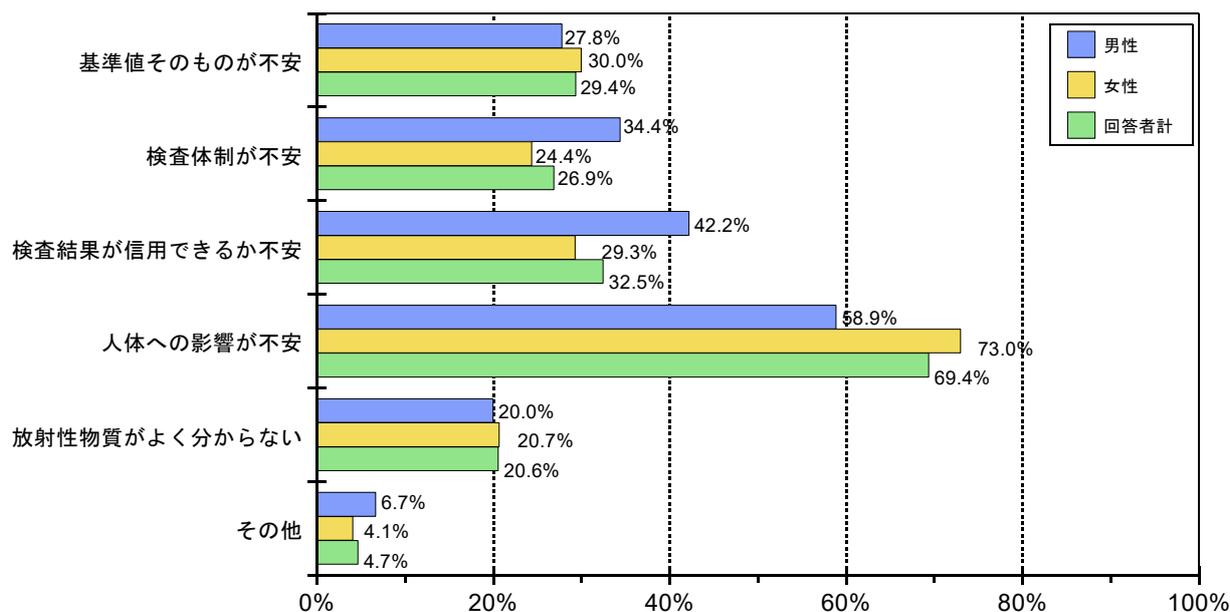
問13 気にしている理由は何ですか。(複数回答)

※問12で1「非常に気にしている」、または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから | 2 検査体制が不安だから |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | |
| 4 人体への影響が不安だから | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他 | |

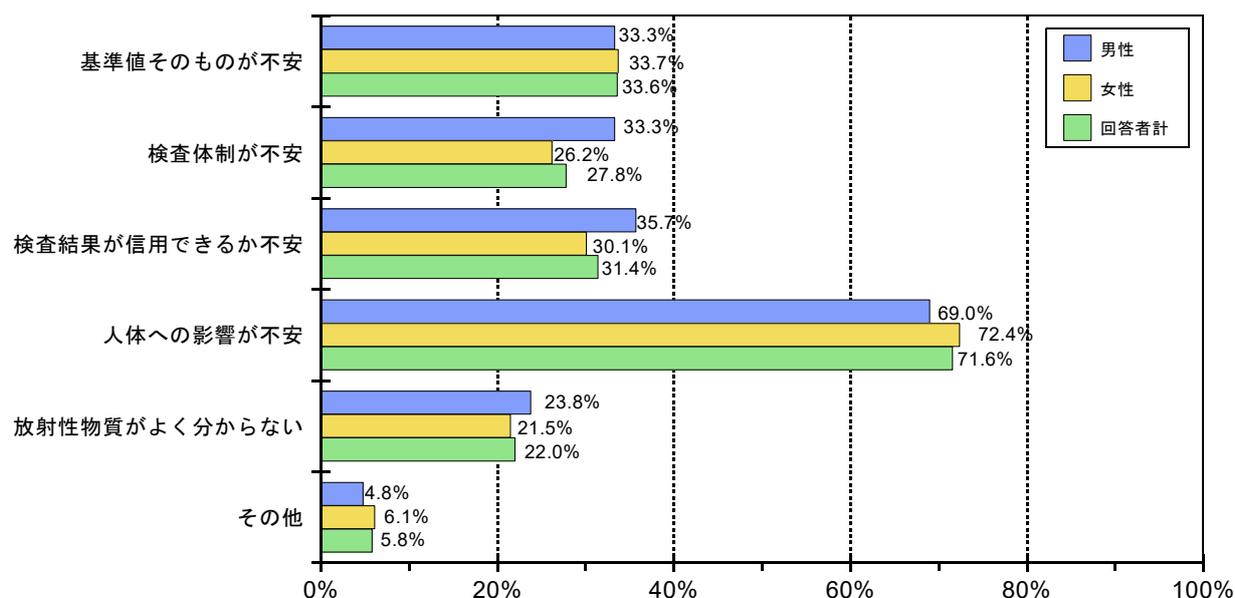
問12で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(69.4%)が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(32.5%)、「基準値そのものが不安だから」(29.4%)の順である。

男女別では、有意差は見られない。



R1 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

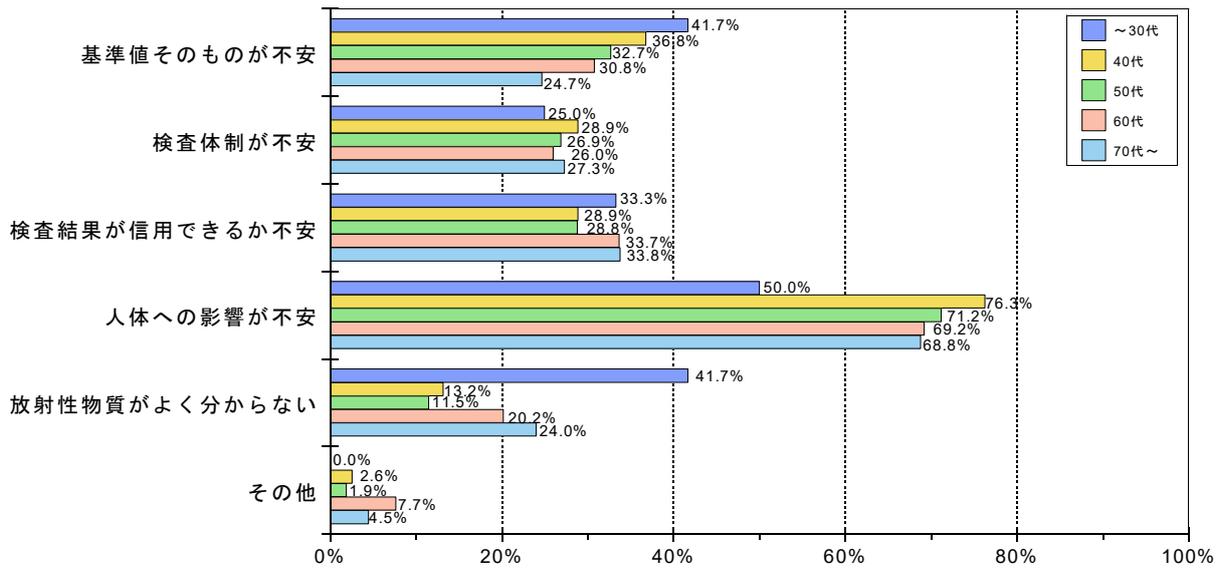
※問12で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答



(参考) H30 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

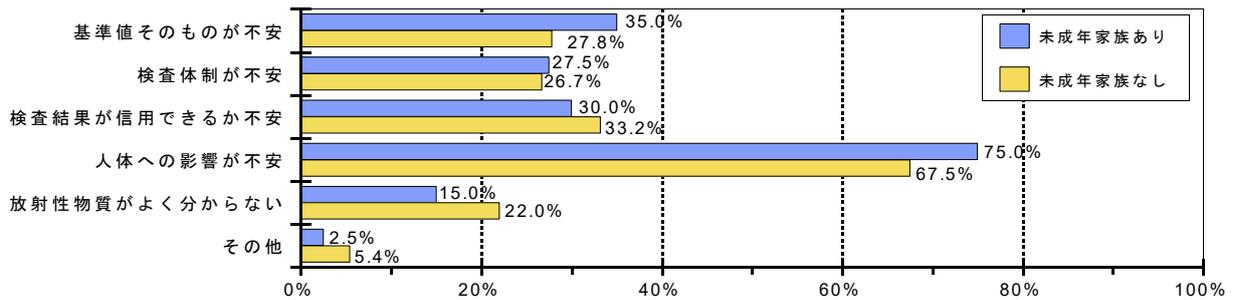
※1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

年代別では、「そもそも放射性物質がよく分からず不安だから」の項目で有意差が見られ、50代の回答割合が低い。



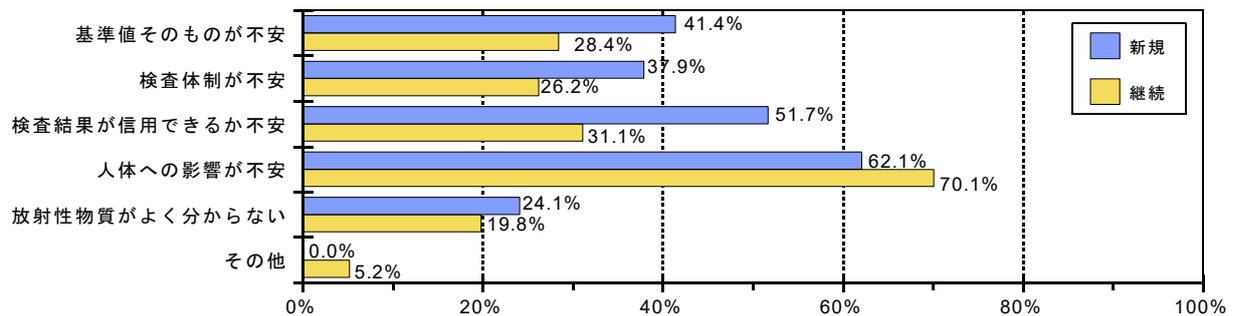
R1 気にしている理由（年代別，複数回答）
 ※問12で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R1 気にしている理由（未成年家族の有無別，複数回答）
 ※問12で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が高い。



R1 気にしている理由（新規・継続の別，複数回答）
 ※問12で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

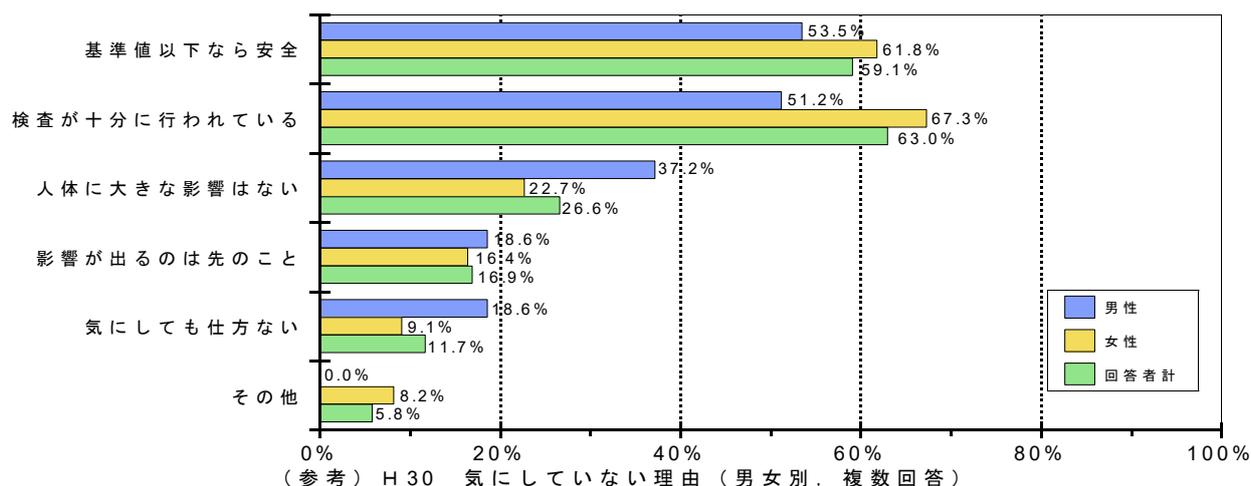
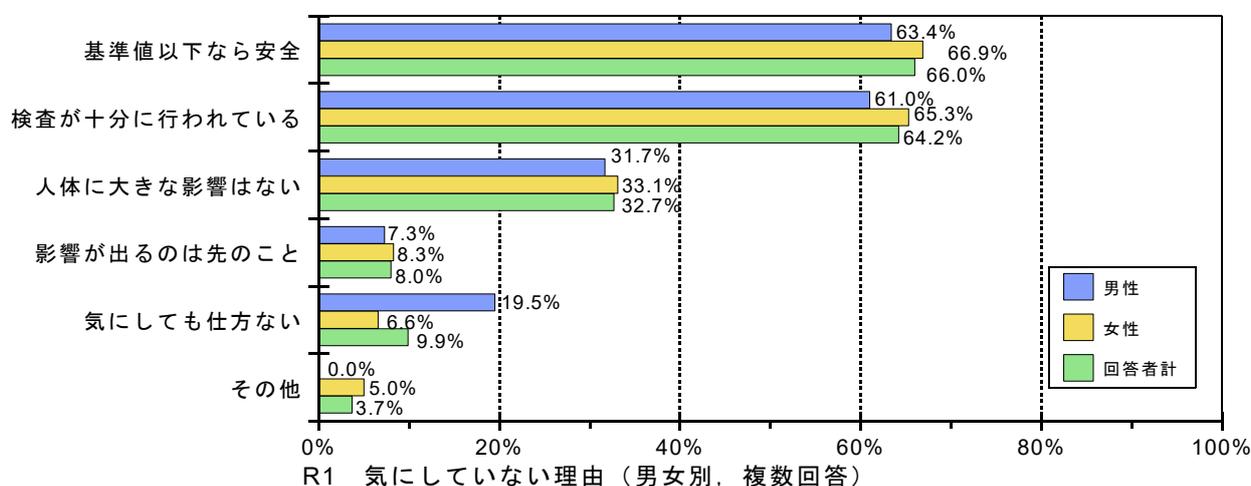
問14 気にしていない理由は何ですか。(複数回答)

※問12で3「あまり気にしていない」、または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

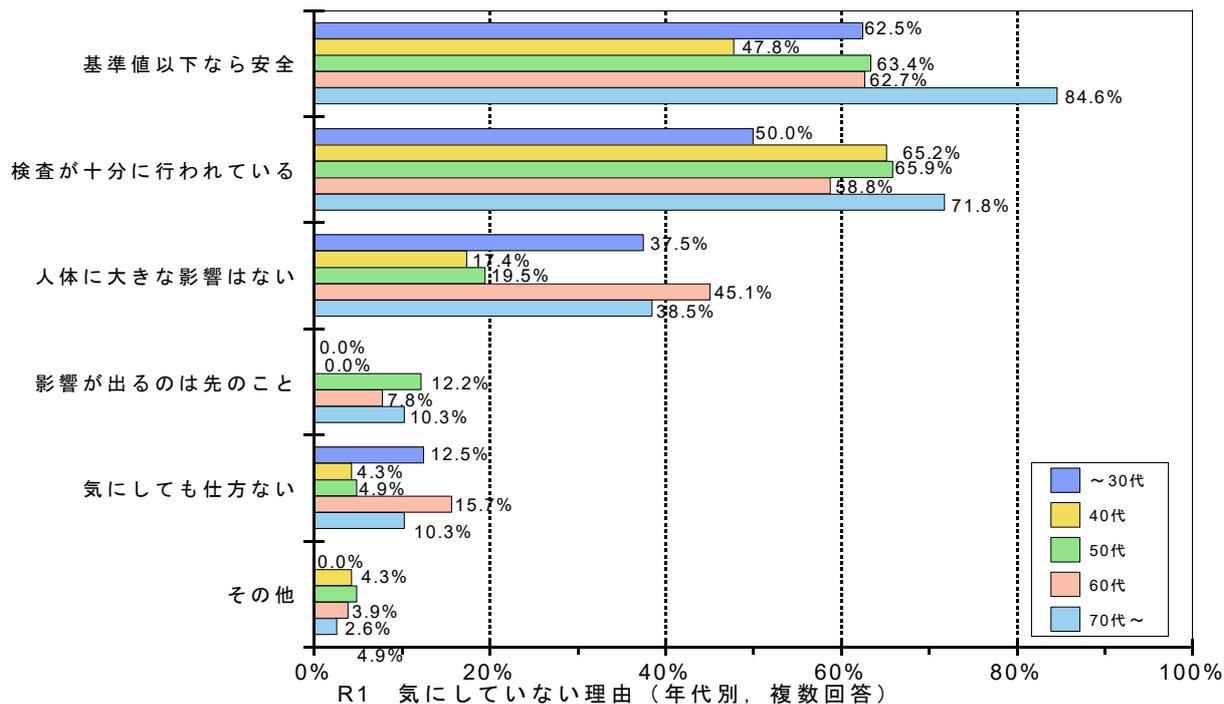
- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

問12で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「基準値以下なら安全だと思っているから」(66.0%)が最も多く、次いで「検査が十分に行われていると思っているから」(64.2%)の順である。また、昨年度に比べ、「基準値以下なら安全だと思っているから」は9.7ポイント増加し、「検査が十分に行われていると思っているから」は2.0ポイント減少した。

男女別では「放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから」で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

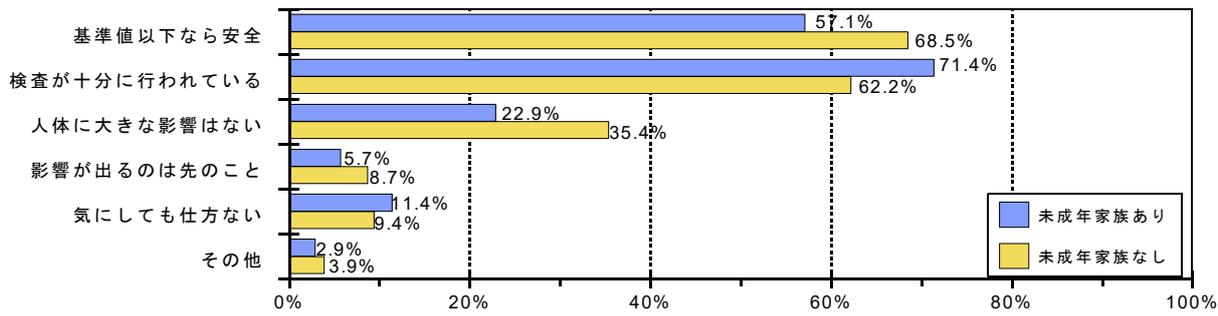


年代別では、有意差は見られない。



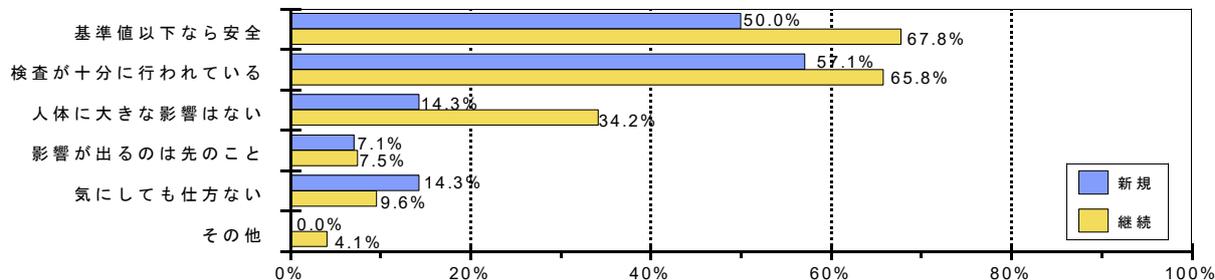
R1 気にしていない理由（年代別，複数回答）
 ※問12で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R1 気にしていない理由（未成年家族の有無別，複数回答）
 ※問12で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。



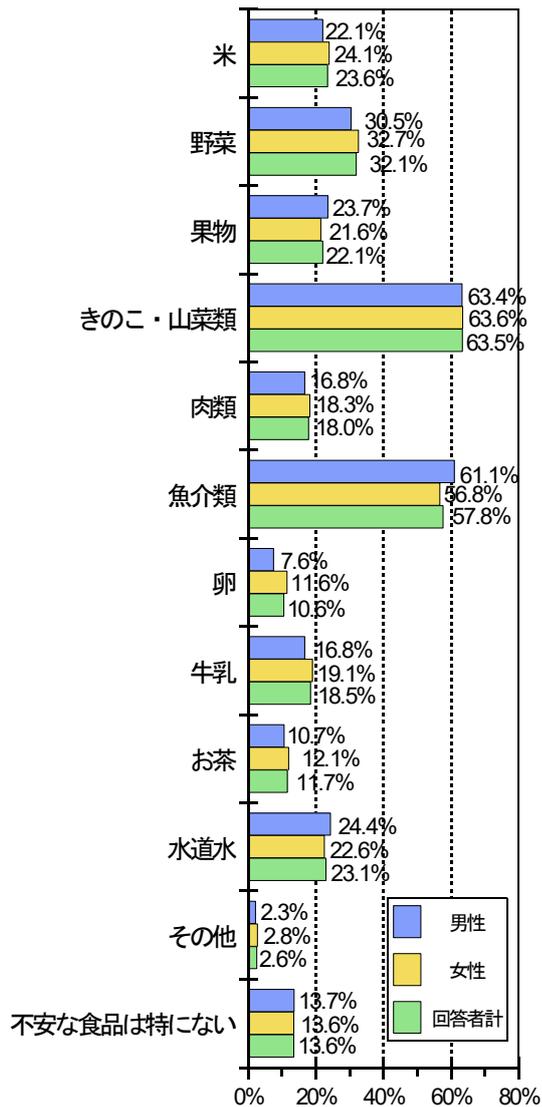
R1 気にしていない理由（新規・継続の別，複数回答）
 ※問12で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

問15 食品中の放射性物質について、現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

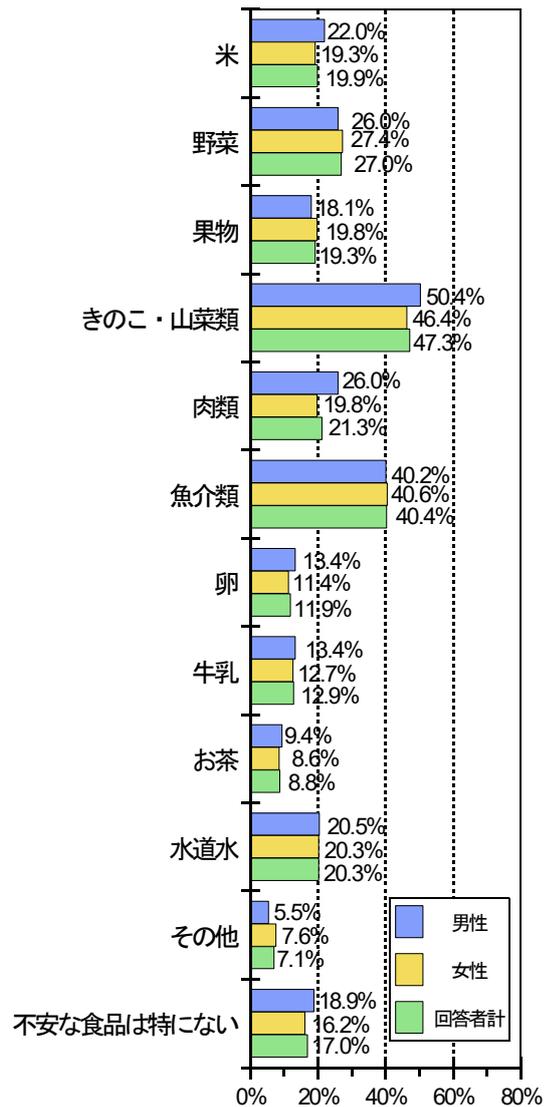
1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にない

不安を抱えている食品としては、「きのこ・山菜類」(63.5%)、「魚介類」(57.8%)、「野菜」(32.1%)の順であり、昨年度同様、「きのこ・山菜類」、「魚介類」、「野菜」に対して不安を感じる人が多く、その回答割合は増加している。また、「不安な食品は特にない」(13.6%)は昨年度に比べ3.4ポイント減少した。

男女別では、有意差は見られない。

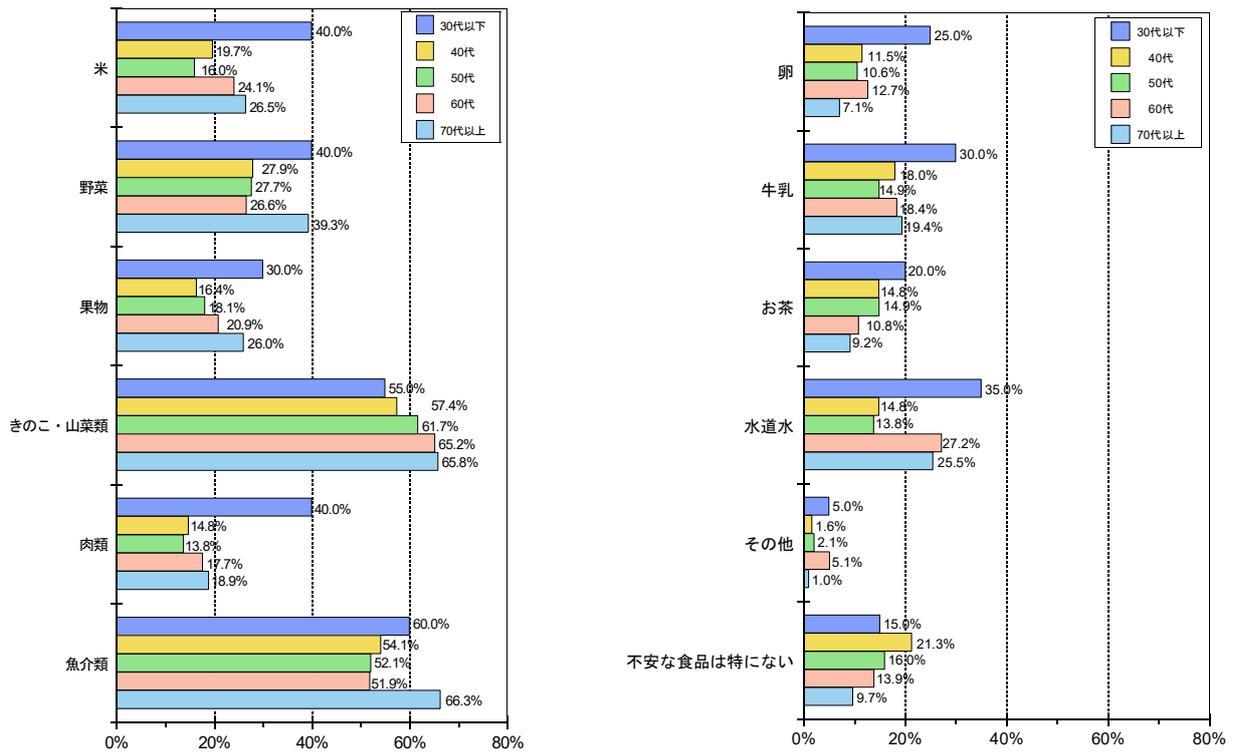


R1 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

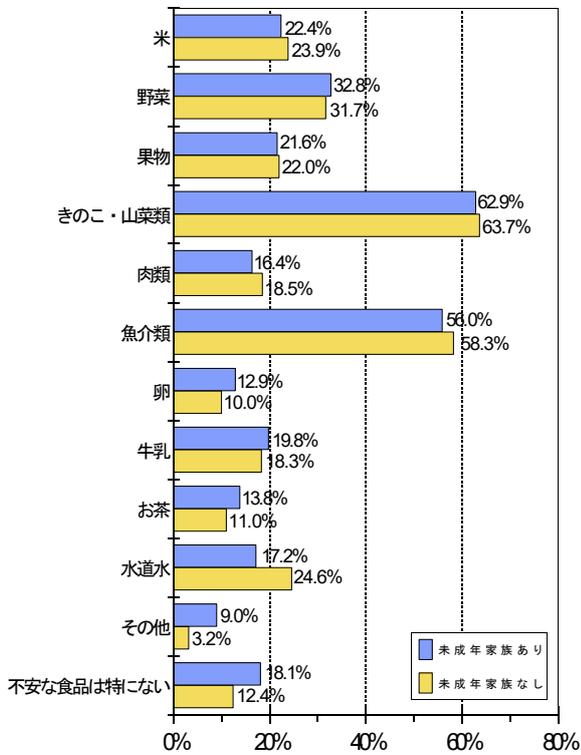


(参考) H30 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

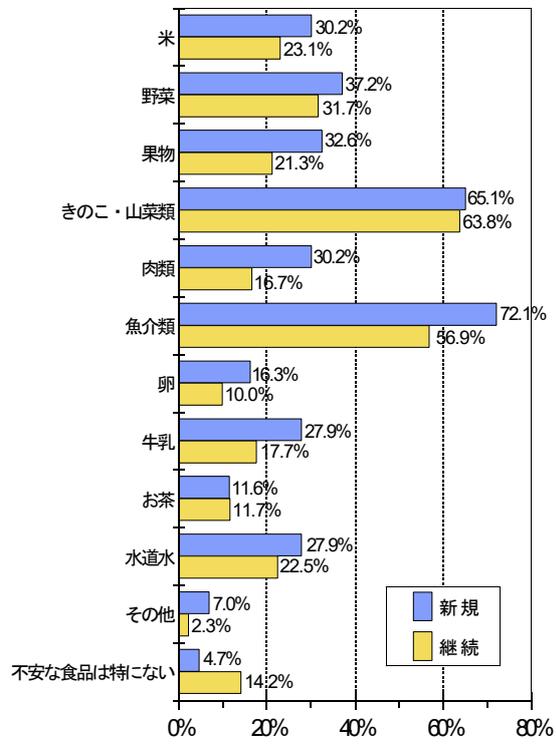
年代別では「魚介類」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。また、「水道水」の項目では、50代の回答割合が低い。



R 1 不安を感じる食品（年代別、複数回答）



R1 不安を感じる食品（未成年家族の有無別、複数回答）



R1 不安を感じる食品（未成年家族の有無別、複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

新規・継続の別では、「肉類」で有意差が見られ、新規モニターの高回答割合が高い。

問 16 不安な食品の主な理由

() 内は理由回答人数

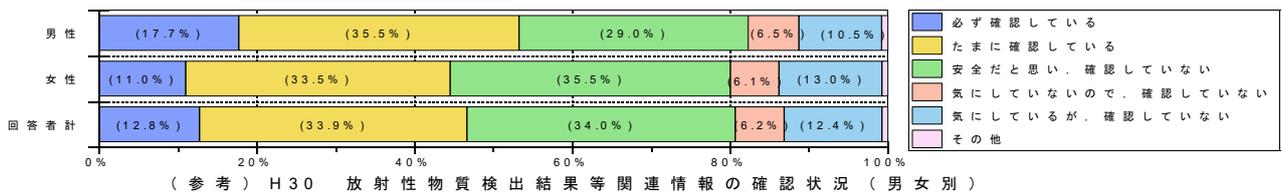
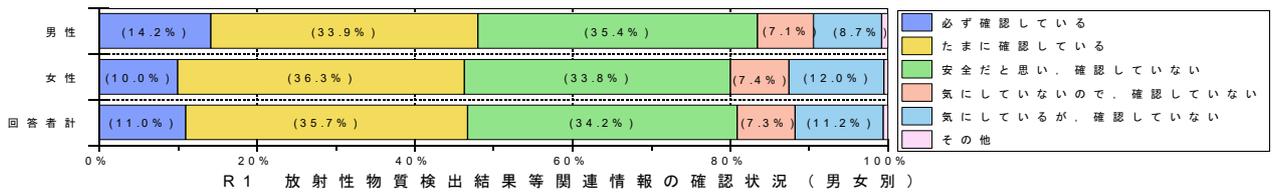
1. 米 (92)	2. 野菜 (125)
<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質 (31) ・毎日食べるものだから (21) ・産直販売, 自主流通 (3) ・産地表示 (2) ・農薬 (1) ・大気汚染 (1) ・カドミウム (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質 (34) ・毎日食べるものだから (14) ・産直販売, 自主流通 (7) ・生で食べるから (5) ・農薬 (4)
3. 果物 (94)	4. きのこと・山菜類 (273)
<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質 (14) ・毎日食べるものだから (9) ・農薬 (5) ・生で食べるから (3) ・産地直売, 自主流通 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質 (95) ・野生のもの (30) ・出荷制限 (23) ・産直販売, 自主流通 (20) ・毎日食べるものだから (1)
5. 肉類 (76)	6. 魚介類 (249)
<ul style="list-style-type: none"> ・飼料 (16) ・放射性物質 (18) ・毎日食べるものだから (9) ・輸入品 (1) ・交配 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水汚染 (45) ・放射性物質 (28) ・底物 (カレイ, ヒラメ) (10) ・回遊魚 (8) ・貝類 (5) ・毎日食べるものだから (5) ・産地 (4) ・海洋プラスチック (3)
7. 卵 (44)	8. 牛乳 (77)
<ul style="list-style-type: none"> ・飼料 (5) ・放射性物質 (5) ・毎日食するものだから (4) ・生で食べるから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料 (20) ・放射性物質 (9) ・毎日飲むものだから (6) ・白血病との関連 (1) ・産地 (1)
9. お茶 (49)	10. 水道水 (93)
<ul style="list-style-type: none"> ・放射性物質 (12) ・毎日飲むものだから (2) ・以前報道されていたから (1) ・農薬 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日飲むものだから (12) ・放射性物質 (7) ・塩素の含有 (3) ・水質 (1) ・基準値が低いから (1) ・測定方法が不明だから (1)

問 17 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

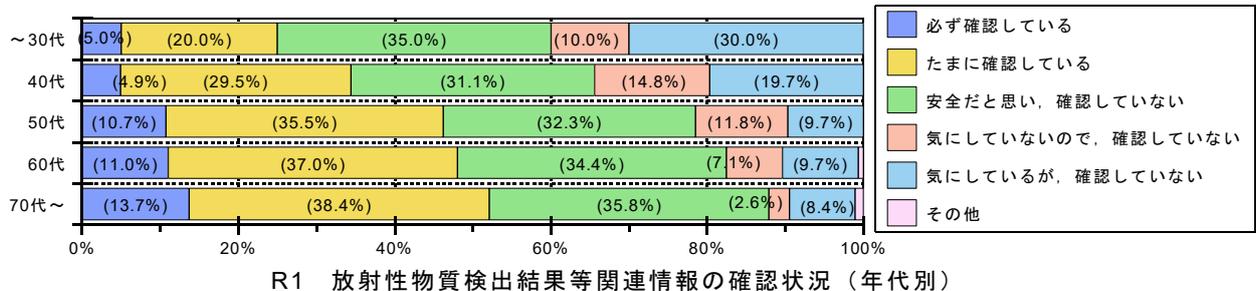
- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1 必ず確認している | 2 たまに確認している |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認していない | |
| 4 気にしていないので、確認していない | |
| 5 気にしているが、確認していない | 6 その他 |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(11.0%)、「たまに確認している」(35.7%)を合わせて「確認している」が46.7%で、昨年度と同じであった。一方、「売られているものは安全だと思っているので確認していない」(34.2%)、「気にしていないので、確認していない」(7.3%)、「気にしているが、確認していない」(11.2%)は合わせて52.7%であった。

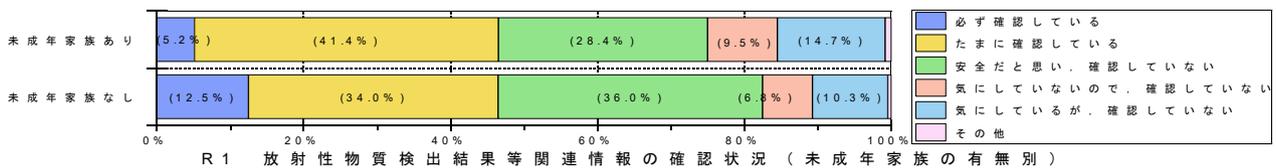
男女別では、有意差は見られない。



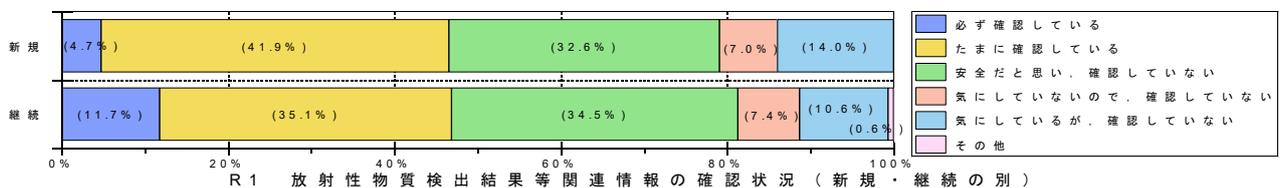
年代別では「気にしていないので、確認していない」の項目で有意差が見られ、40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また、「気にしているが、確認していない」の項目では、30代以下・40代の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



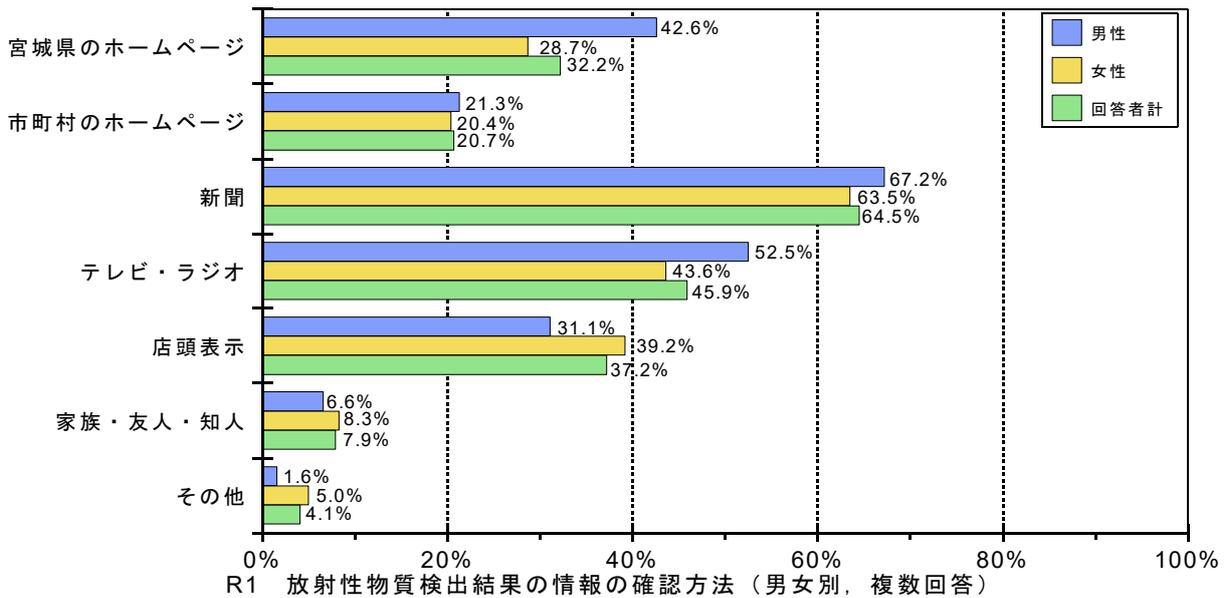
問18 放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を、どのように確認していますか。(複数回答)

※問17で1「必ず確認している」、または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答

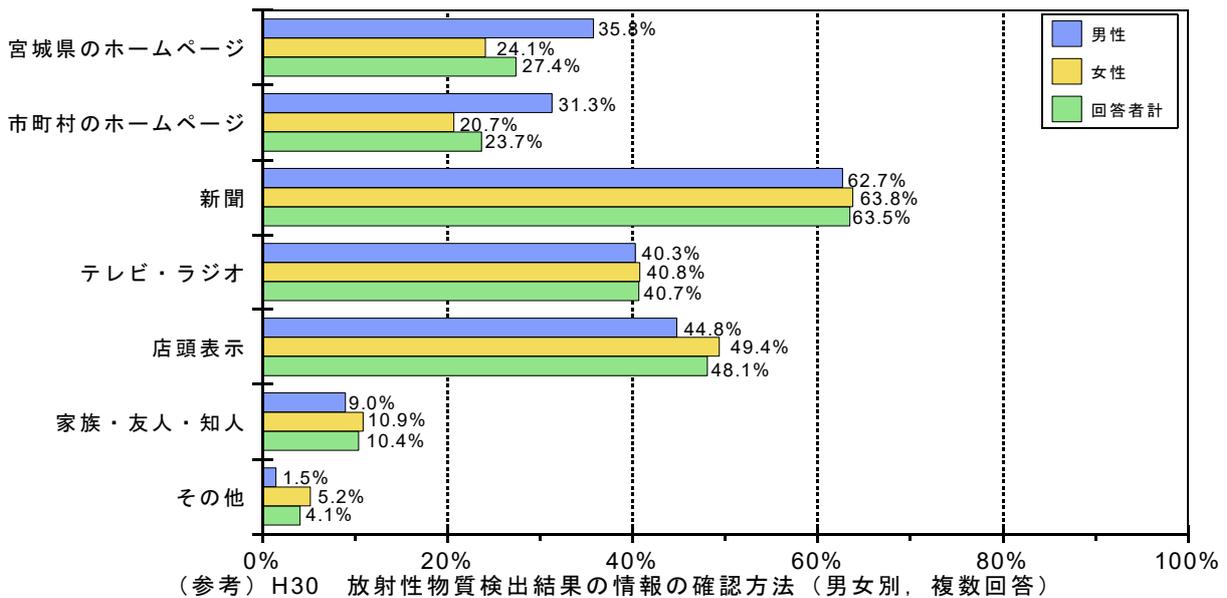
1 宮城県ホームページ	2 市町村ホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 店頭表示	6 家族・友人・知人
7 その他		

食品を購入するときに放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していると回答した人のうち、情報の確認方法としては、「新聞」(64.5%)が最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」(45.9%)、「店頭表示」(37.2%)の順となった。

男女別では「宮城県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

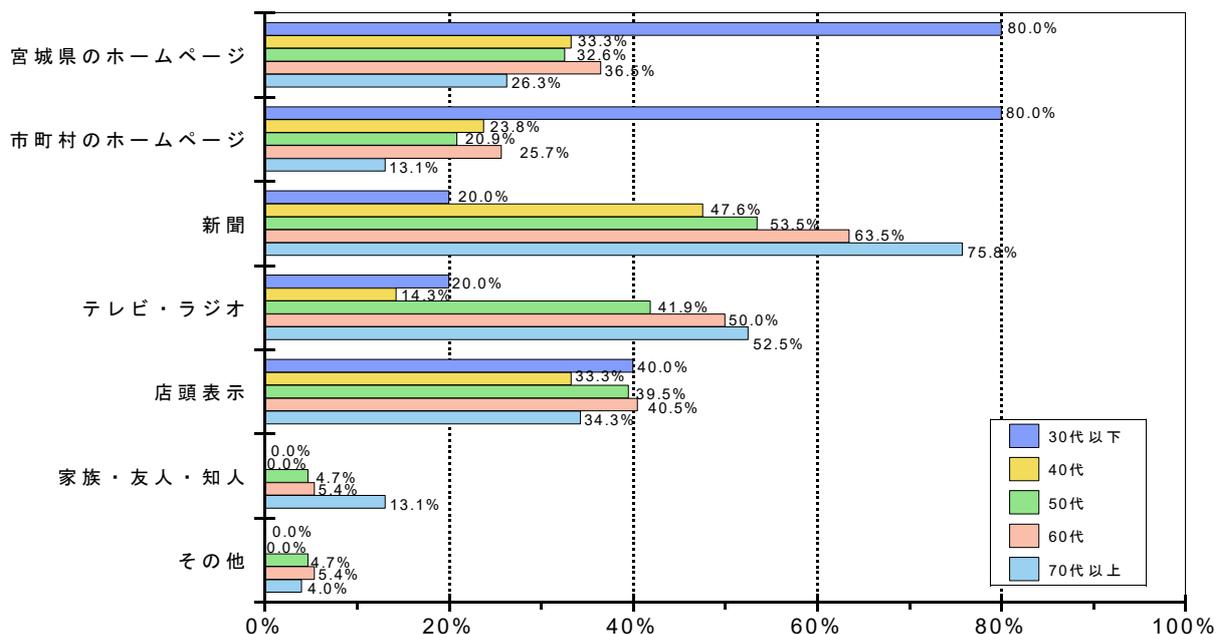


※問17で1「必ず確認している」または2「たまに確認する」を選択した者のみ回答



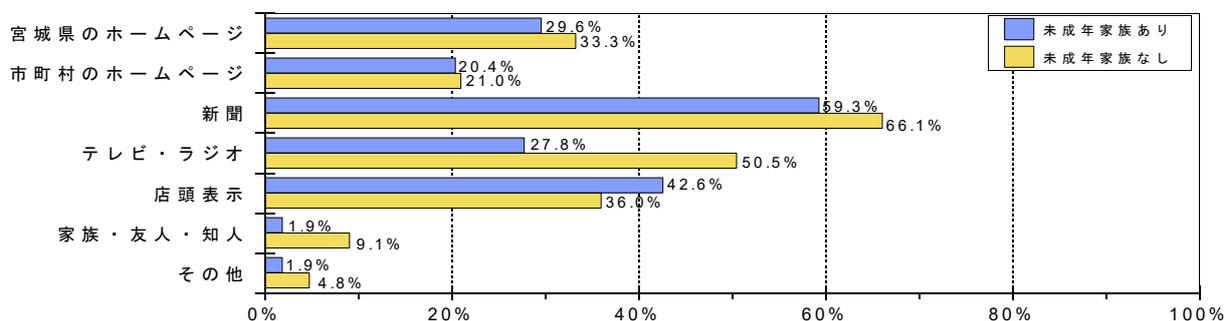
※1「必ず確認している」または2「たまに確認する」を選択した者のみ回答

年代別では「市町村のホームページ」の項目で有意差が見られ、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また、「新聞」の項目では、30代以下・40代・50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。「店頭表示」の項目では、40代の回答割合が低い。



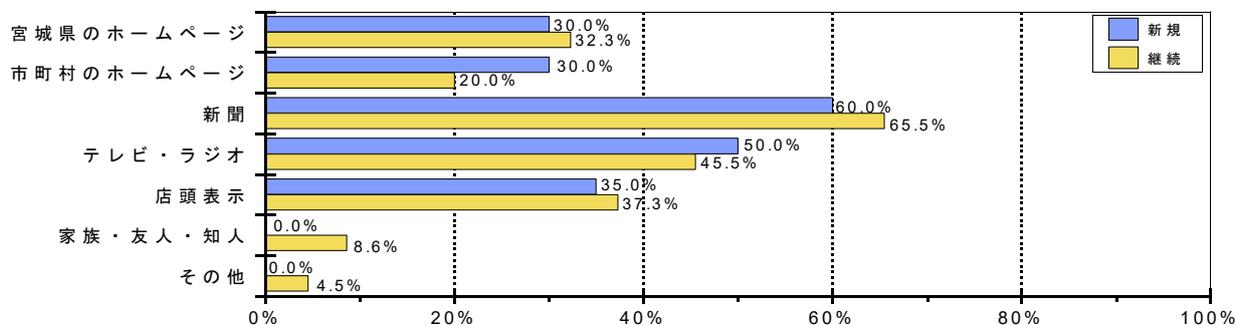
R1 放射性物質検出結果の情報の確認方法（年代別，複数回答）
※問17で1「必ず確認している」または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



R1 放射性物質検出結果の情報の確認方法（未成年家族の有無別，複数回答）
※問17で1「必ず確認している」または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。



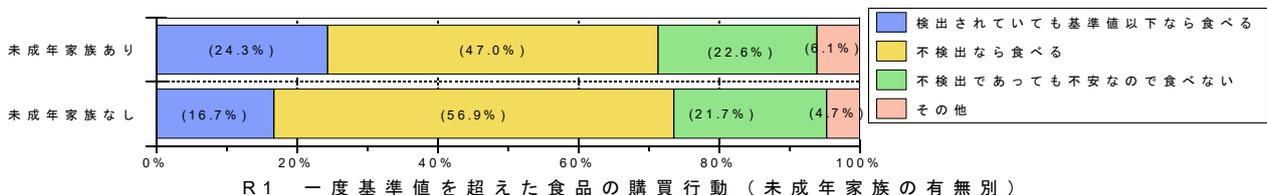
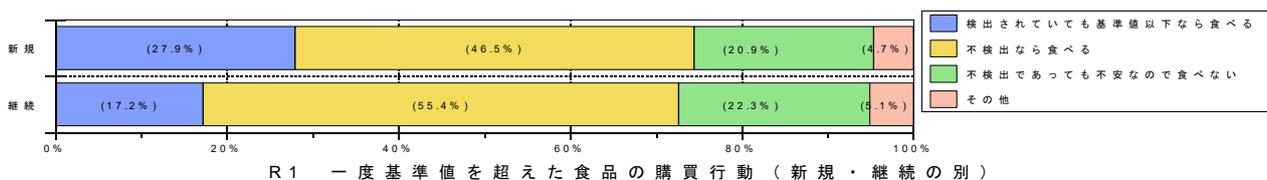
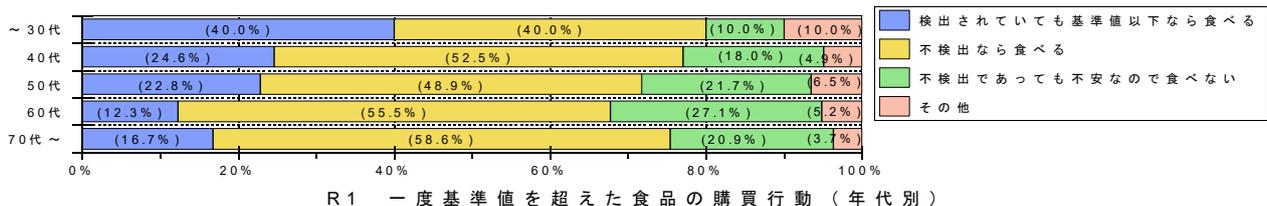
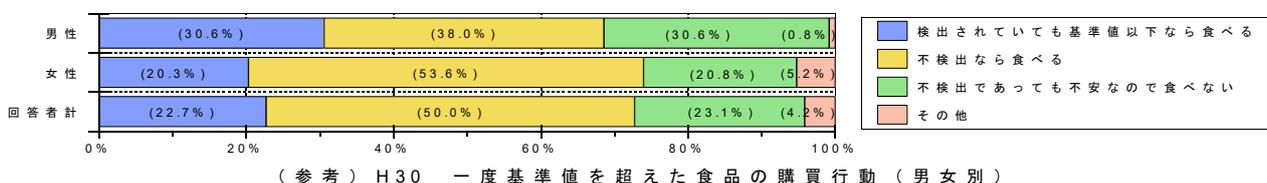
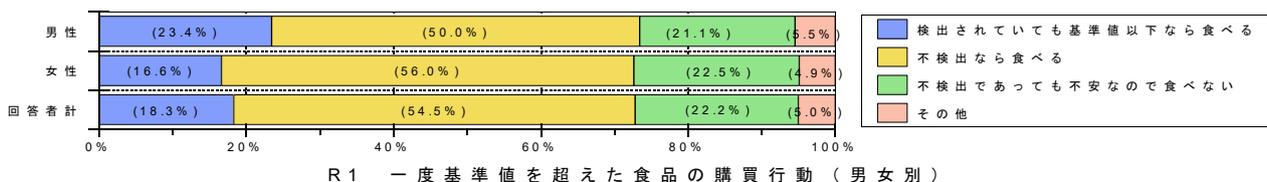
R1 放射性物質検出結果の情報の確認方法（新規・継続の別，複数回答）
※問17で1「必ず確認している」または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答

問19 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。(単一回答)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 2 不検出なら食べる |
| 3 不検出であっても不安なので食べない | 4 その他 |

一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品については、「検出されていても基準値以下なら食べる」(18.3%)、「不検出なら食べる」(54.5%)を合わせて「食べる」は72.8%で、昨年度に比べ0.1ポイント増加した。

男女別、年代別、未成年家族の有無、新規・継続の別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

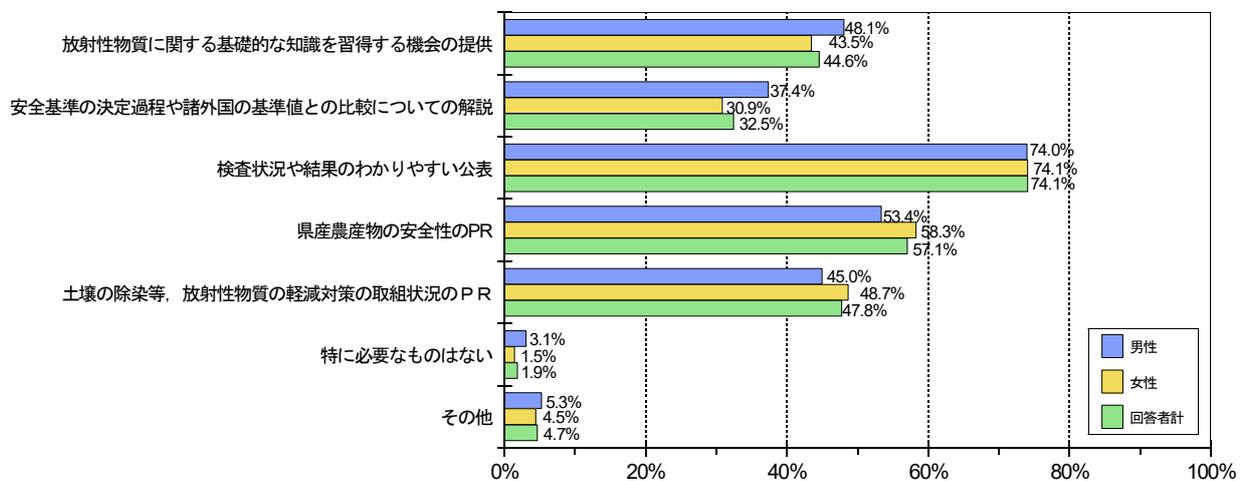


問 2 0 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。（複数回答）

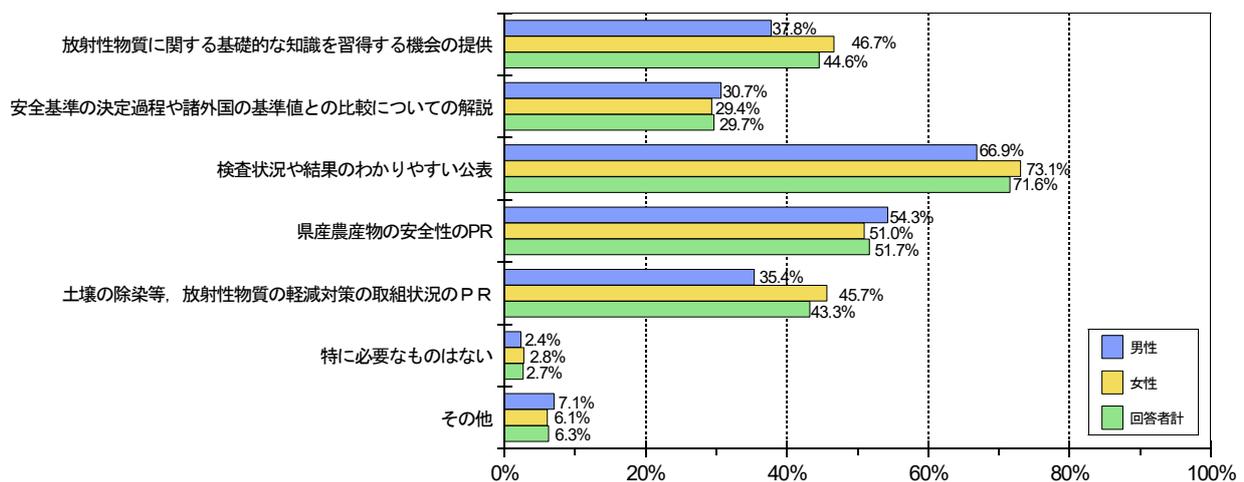
- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」（74.1%）、「県産農産物の安全性のPR」（57.1%）、「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」（47.8%）、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」（44.6%）の順で要望が高い。

男女別では、有意差は見られない。

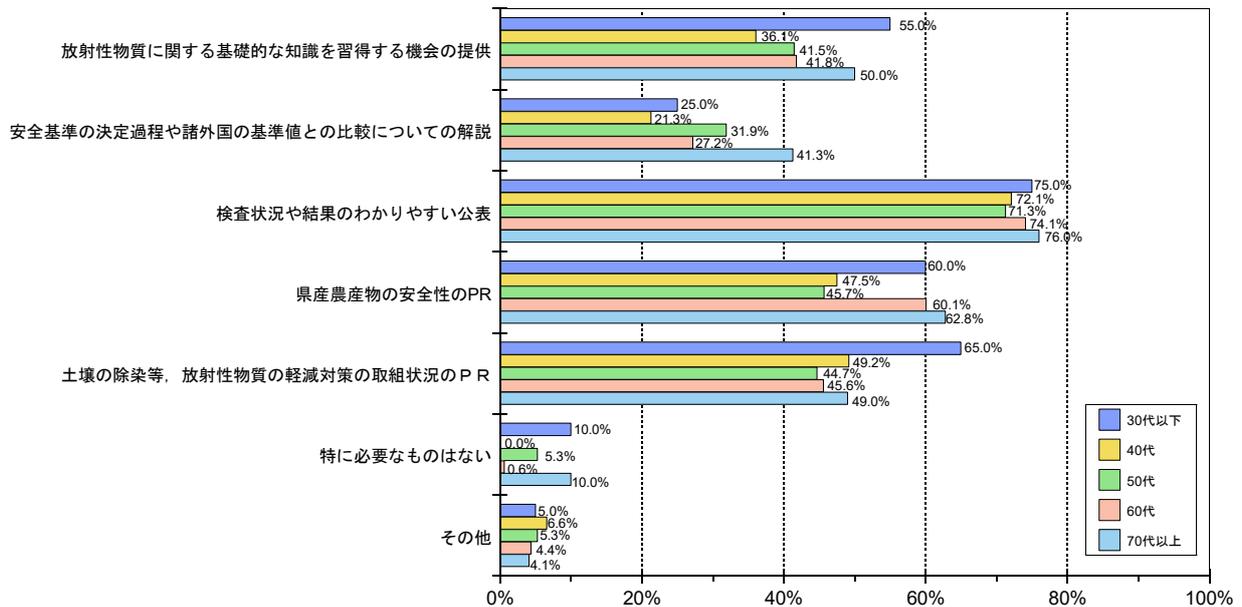


R1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）



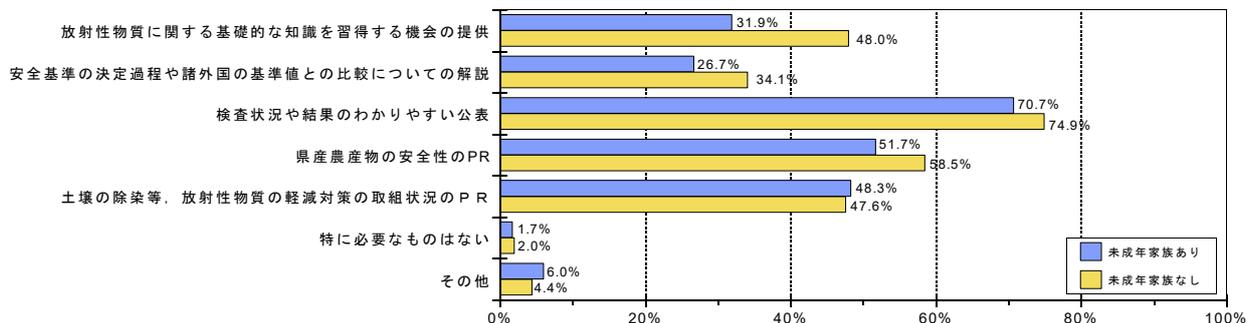
(参考) H30 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）

年代別では、「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」の項目で有意差が見られ、40代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。また、「県産農産物の安全性のPR」の項目では、50代の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。「特に必要なものはない」の項目では、30代以下・50代の回答割合が高い。



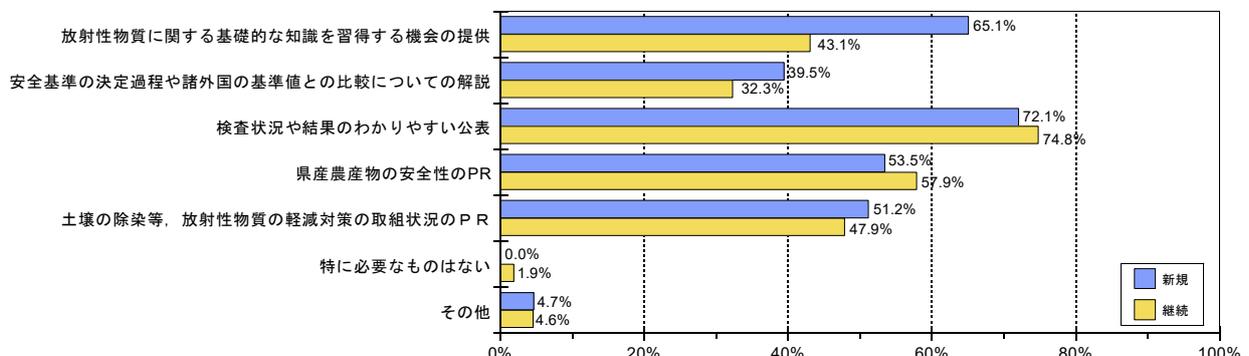
R1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



R1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が高い。



R1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（新規・継続の別、複数回答）

問 2 1 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策について、ご意見やご提言があればお書きください。

計243件の記述回答があり、その内容としては、「分かりやすい情報提供」、「HPを見ない世代への情報提供の考え方」等、情報提供に関する意見が最も多かった。また、放射性物質については、風評被害や検査態勢など、昨年に引き続き多くの意見が寄せられた。食の安全安心全般については、輸入食品・食品添加物・農薬に関する意見が多く見られた。(個別の内容は省略)